あなたのカルデアは催眠おじさんに乗っ取られました
Presented by 530
DOJIN
R18
成人向け
18歳未満の購入・閲覧禁止

「せ…先輩…」
「いや～キミのカルデア良いコ揃ってるね～❤期待以上だよぉ」
「あ、とりあえずマスター登録は僕に変えさせてもらったから❤キミが人質だって知ったらみんなとっても素直だったよ(笑)」
もみ
もみ
「キミのサーヴァントはみ～んな僕の言うことに絶対服従の性奴隷になっちゃいました(笑)」
「ごめんなさい…私の力及ばず…先輩を守れなくて…」
ギンギン

「で、でも安心してください！
必ず…助け出してみせますから…っ
そこで待って…んっ♥いて、ください」
「はいはい、最初はみんな
そういうんだよ(笑)」
もみ
もみ
「まずはキミの一番
大事な後輩ちゃんから♥
マシュちゃんは処女？
腕よりぶっといち○ぽに
耐えられるかな～(笑)」
「というわけで
これから一人ずつ
ち○ぽで堕として
いこうと思いま～す♥」
ギンギン
「私は…あう♥こ、こんな
卑劣な男性に屈したりしません…っ
私は先輩の
「はいはいそこまで～
ほらセックスするよ
マシュちゃん♥」

「な――」

目が覚めたら薄暗い
地下室にいた…
身体は拘束され、
目の前にはひとつの
大きなスクリーン…

そこに映し出されたのは
見たこともない男に
身体をまさぐられる
大切な後輩の姿だった…

腕からは令呪が消え、
サーヴァントたちとの
繋がりも感じられない…

男の言う通り、
本当にマスター権を
奪われてしまった
ようだった…

この映像はいつ撮られた
ものなのだろう？
それともリアルタイム
なのだろうか…？

すぐに彼女を助けに
行かなければ…!!

「くそ…っ!!
マシュ……ッ」

ガチャ

ガチャ

しかし身体は
微動だにしない…!!
そうしている間も
映像は流れ続ける——

「く……っ」
「はは、ダメだよ～
抵抗したって
無駄無駄（笑）」
「僕は前のマスター
みたいに甘くないよ。
性奴隷（サーヴァント）はご主人（マスター）様に
絶対服従！
普通の契約より全然
強力な洗脳催眠で
霊基を支配してるん
だから
僕の言うことには
絶対逆らえないよ♥」
「ほら教えた通り
いやらしく
おねだりして♥
大人の女になるとこ
マスターくんに
見せてあげちゃお♥」
ぐぐ…
「ぐ――」
（本当に……!!
この男の一言一言に令呪で
命じられたような強制力を
感じる……!!
この男が言ってることが
正しいような錯覚まで……
気をしっかり持たなけれ
ば……!!）

「ま、マシュ・キリ○ライトは
ご主人様の性処理専用に
存在するデミ・サーヴァント
です…♥」
「どうかご主人様の
逞しいおち○ぽ様で…
私の未熟な処女ま○こに
オナホとしての役割を
教え込んでください…っ♥」
「よしよし♥
イイコだなぁ～
マシュちゃんは♥」
ビッ
ミチ

「それじゃあ…」
ちゅく♡

「遠慮なくっ」
「あっ!?」
ズブ
ブブ
ブブブブ
チチチチ

ふぐっっっっ!!
ぐっ!!!
「うひひ～❤マシュちゃんの処女ゲットお～❤❤プチプチっと膜を破る感触がち○ぽに気持ちいい～❤❤」
ビク
ビク
「必死に声ガマンしちゃってホントに健気な後輩だね～❤」
「でも僕はもっと可愛い悲鳴が聞きたいんだよな～……❤」
おらイケっ（笑）」
ぐ
ち…

あはっ
「ふひひっ
そうそう❤
女の子は素直が
一番だよ～」
キャ
あはあ
あはあ
あっ!?
ビク
「ほら、初めてで
腕よりぶっといち○ぽ
受け入れても大丈夫
でしょ？
痛いのも気持ちイイ
よね～❤」
あっ!!
「遠慮しないで❤
これから一突きする
度にイッていいからね」
ブシャ

「ひっひ❤華奢な身体跳ね回らせて膣内痙攣させちゃって❤初めてでこんな快楽知っちゃったらもう戻れないんじゃない？(笑)」
「これでわかったでしょ絶対服従の意味❤身体はもうとっくにボクの言いなり❤快楽に堕ちれば堕ちるほど心も支配されていくからね～」
「んほほ～❤派手にイッてるね～❤初めてのセックスそんなに気持ちいい？マシュのま○こもイイよ～今まで喰ってきた処女の中でもかなり上の方❤」
ブシュッ
ブシュッ
ガクッ
ガクッ
ガクッ
おっ!?
おほっ
はおっ!?

せっ
せっ
はぁ
はぁ
ガク
ぢっ
ぢっ
「はは…ホントに前のマスターが好きだったんだね～マシュは♥」
「あぁ、安心してわかってるから♥前の男が忘れられない困ったちゃんなマシュのためにちゃんと洗脳してあるから♥」
ブシュッ
ブシュッ
「でも無駄だよ～あのガキ一人じゃ何もできないし(笑)そ・れ・に…今のマスターはボクでしょ？」
ガク
ガク
「僕に膣内射精される度に前のマスターへの気持ちが消えて♥その分ボクのコトが好きになるようにね♥」

「おほっ❤一段と締まりが…っ❤マシュはそういうのが好きなんだね❤将来有望なマゾ気質だなぁ❤」
ひ
ぶしゅっ
ぶしゅっ
「ほれほれ～抵抗しろ～射精しちゃうぞ～このまま膣内射精しちゃうぞ～いいのかな～？前のマスターもコレ見てるのにな～」
ガクッ
ガクッ
ガクッ
「ひっひひ❤あ～射精そう❤射精すぞお…っ❤元マスターが見てる前で❤マシュに初めての膣内射精…っ❤」
やだっ
やだっ
ぱんぱんっ
ぱんぱんっ
ぱんぱんっ
ぱんぱんっ

びくっ!!?
ドン
『うほ♥』
ぜぜぜぜぜぜぜぜ

「お❤いいねいいね～イイ感じにキマってるね～❤」
ズギュ～ン
魅了
魅了
魅了
魅了
魅了
お
おお
「ほらほら抵抗しないで身を任せて～」
やだ
わたしなくなっちゃう
「頭の中書き換えられてるみたいでしょ～？処女奪われて膣内射精されて弱ったところにつけ込む洗脳催眠❤」
「前のマスターのコトなんかぜ～んぶ忘れて心もボクのものになっちゃいなよ～❤」
せんぱい

永続魅了【解除不可】
キュン
キュン
キュン
キュン
魅了
魅了
魅了
魅了
えへ??
あ!
「はい、終わり～❤
けっこう頑張ったけど
洗脳催眠に耐えられる
わけないじゃん(笑)」
「さてここでこの映像を
見てる元マスターくんに
問題です(笑)
マシュちゃんはまだ
君への気持ちを覚えてる
でしょ～か？」
「洗脳前にどれだけ
好きだったかで耐えられる
回数が変わるからね❤
さあここで二人の愛が
試される～(笑)」

永続魅了【解除不可】
キュン
キュン
キュン
キュン
魅了
魅了
魅了
魅了
せ
せんぱい！
「おっとこれは……!!
さすが長い旅をともに
してきたパートナー(笑)
まだまだ余裕のようです❤」
「ホントにイイ後輩だな～❤
ますます欲しくなって
きちゃったよぉ～❤❤」
「これからじ～っくり
時間をかけて堕として
やるからな❤
覚悟しろよ～」

「マシュ……
ふーっ
マシュ…ッ」

男への怒り…彼女を
助けなければという焦り…
そんな思いとは裏腹に
俺は勃起していた…

マシュのあられもない姿…
見たことのない彼女の表情…
抑えようと思えば思うほど
股間は情けなく張りつめていく…っ

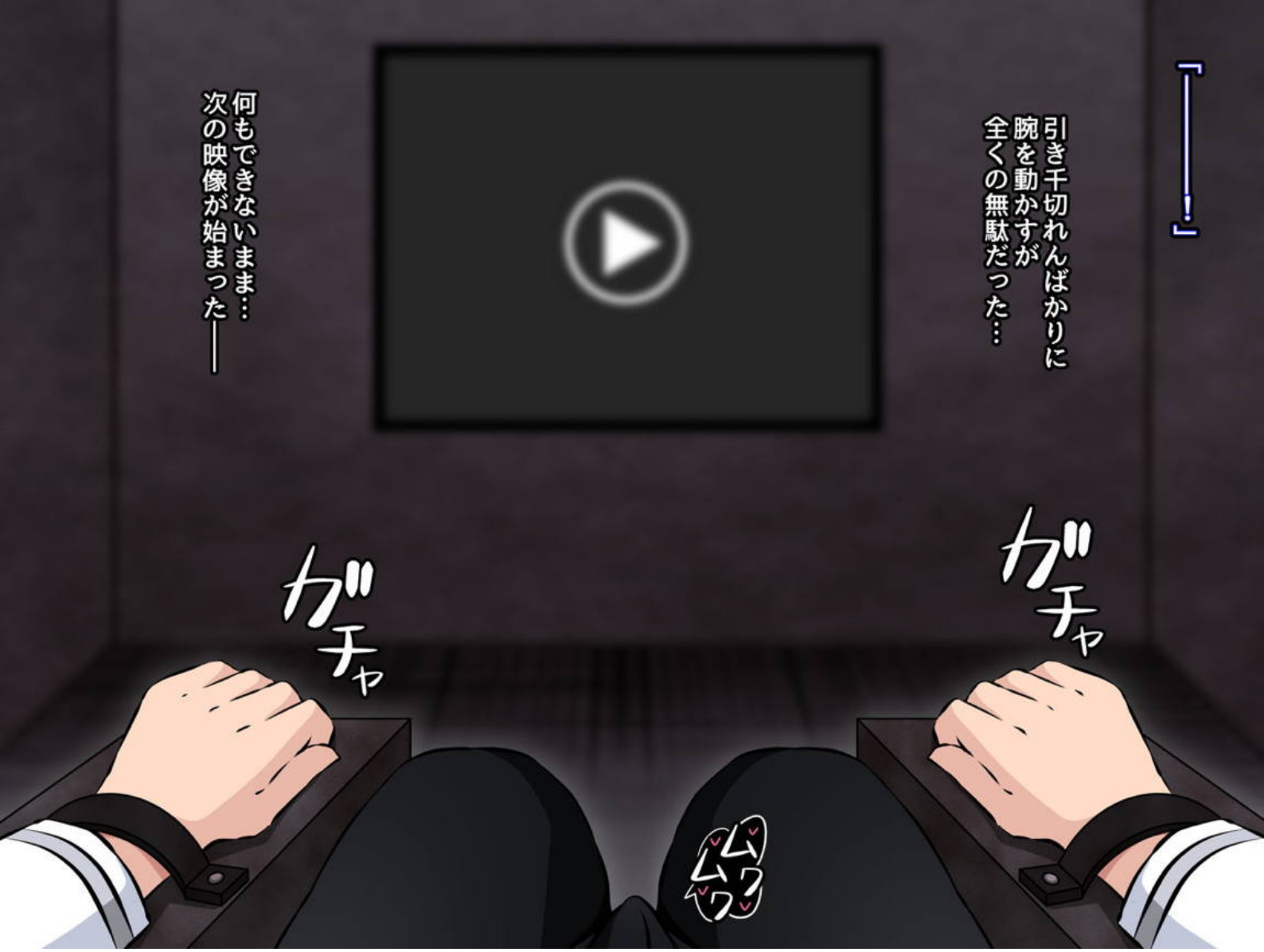
一度の膣内射精でこんな…
もしこの映像が何週間も前に
撮られたものだとしたら…
今頃マシュは…!?

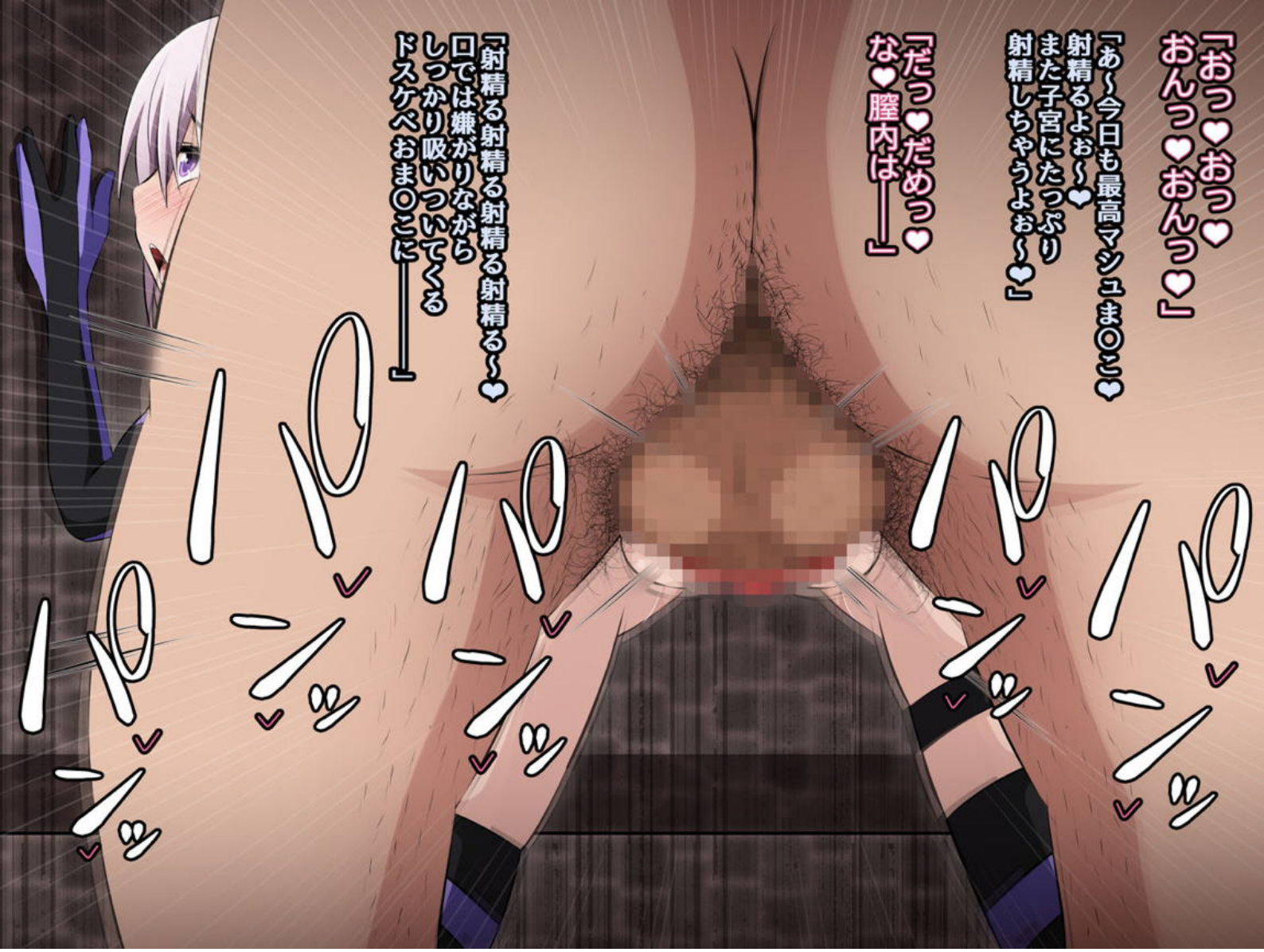
「くそ…っ
くそ…っ」

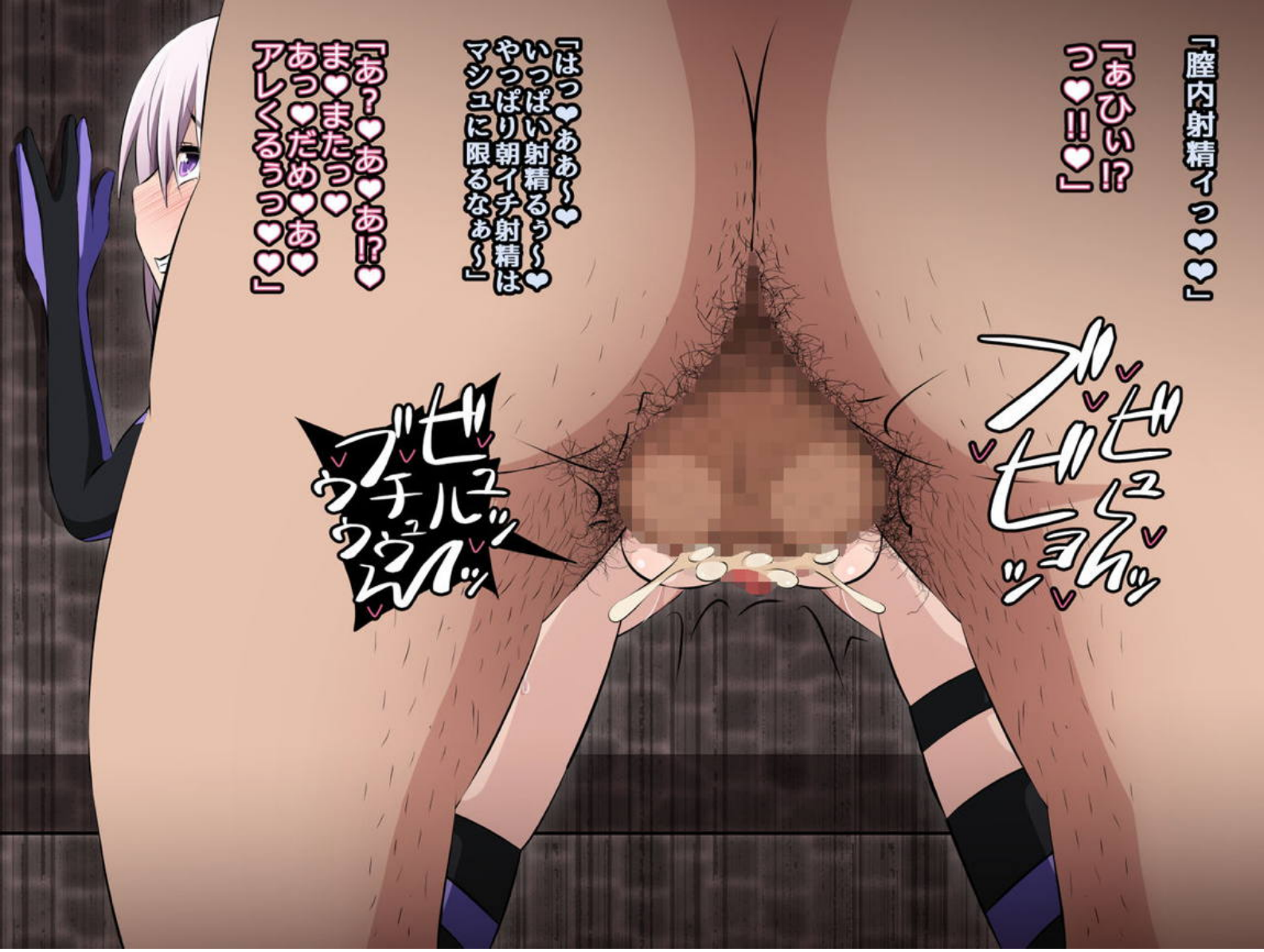
ガチャ

ガチャ

ムクッ


『――!』
引き千切れんばかりに腕を動かすが全くの無駄だった…
何もできないまま…次の映像が始まった――
ガチャ
ガチャ
ムワワ


「おっ♥おっ♥おんっ♥おんっ♥」
「あ～今日も最高マシュま○こ♥射精るよぉ～♥また子宮にたっぷり射精しちゃうよぉ～♥」
「だっ♥だめっ♥な♥膣内は――」
「射精る射精る射精る射精る～♥口では嫌がりながらしっかり吸いついてくるドスケベおま○こに――」


「膣内射精ィっ♥♥」
「あひぃ!?っ♥!!♥」
ブゼゼゼゼゼゼッ
「はっ♥ぁぁ〜♥いっぱい射精るぅ〜♥やっぱり朝イチ射精はマシュに限るなぁ〜」
「あ?♥あ♥あ!?♥ま♥またっ♥あっ♥だめ♥あ♥アレくるっ♥♥」
ブチュルッ
ウウンッ

永続魅了＋7【解除不可】
おっ!?
ブゼゼゼゼッ
「だ♥あっ♥だめっ♥ふぐ♥うっ♥せんぱい…っ♥く♥先輩――っ!!♥♥」
ゼルッ
ブチュウウッ
「ほ♥ほほ～♥ちょっとマシュちゃん締めつけすぎ(笑)おち○ぽ抜けないよ～」
ズギュ

「ふぅーっ♥♥ふぅーっ♥♥」

「さぁて今日もステータス更新完了っと♥どうかな～僕のマシュちゃん♥」

ブゼゼゼゼッ

「む♥無理なんか…っ私は貴方のような男には屈しないと――」

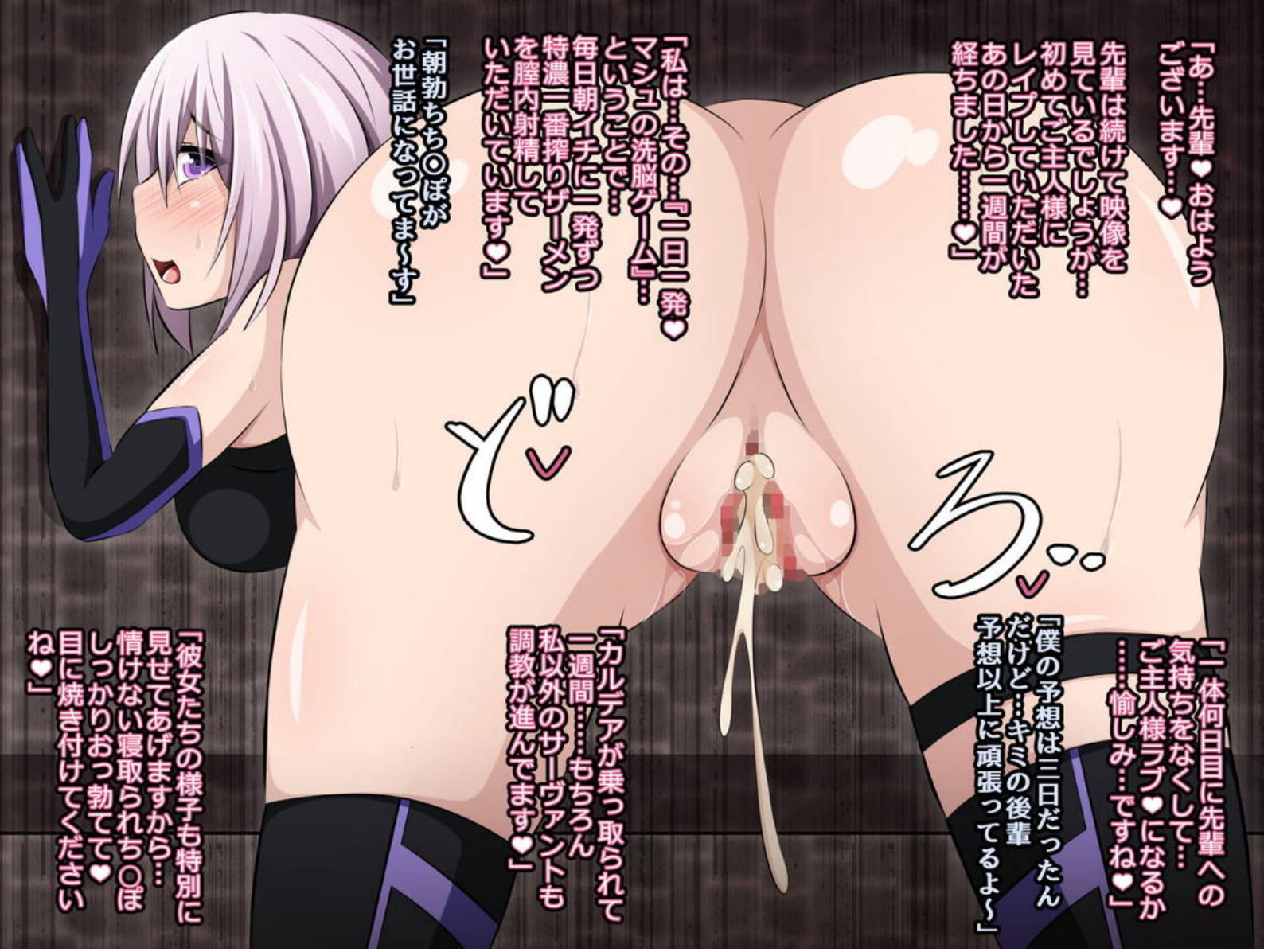
「……わ……♥私はごしゅ……♥あ♥貴方のものじゃありません……っ♥♥私はあの人……先輩の……サーヴァントでえ……♥」

ゼルルッ
ブチュウウ

「おお♥まだ耐える～？無理は身体によくないよ～」

「まあいいや(笑)じゃあ今日はその先輩くんにメッセージよろしくね～教えた通りに言うんだよ♥」

「あ♥はいい…♥」


「あ…先輩♥おはようございます…♥
先輩は続けて映像を見ているでしょうが…初めてご主人様にレイプしていただいたあの日から一週間が経ちました……♥」
「一体何日目に先輩への気持ちをなくして…ご主人様ラブ♥になるか……愉しみ…ですね♥」
「僕の予想は三日だったんだけど…キミの後輩予想以上に頑張ってるよ～」
「私は…その…『二日一発♥マシュの洗脳ゲーム』…ということで…毎日朝イチに一発ずつ特濃三番搾りザーメンを膣内射精していただいています♥」
「朝勃ちち○ぽがお世話になってま～す」
「カルデアが乗っ取られて二週間……もちろん私以外のサーヴァントも調教が進んでます♥」
「彼女たちの様子も特別に見せてあげますから…情けない寝取られち○ぽしっかりおっ勃てて♥目に焼き付けてくださいね♥」

「……」

「…は～い、よくできました❤
最後に何かマシュちゃんから
言いたいことはあるかな？」

「……先輩……
救助が遅れてしまって
すみません…
洗脳催眠は思ったより
解除が難しく…❤」

「で…でも安心してください。
どんなに時間がかかっても
先輩のコトは必ず救い出して
みせますから❤」

「そんなこと言って
この一週間セックスしか
してないよ(笑)
膣内射精は一日一回だけど」

「ごしゅ…この男の言うコト
になんか惑わされないで
ください❤
いくら彼に膣内射精❤され
ようと…私は先輩への
気持ちをなくしたり
しません…っ
気を強くもって…
待っていてください…❤」

「はいはい(笑)
ぐだぐだとごめんね～
元マスターくん❤
じゃあお待ちかねの次…
イッてみよ～」

【ご注意】
酒呑ちゃん編には歯なし描写があります。
（ファイルNo.【201】および【602】）

苦手な方はご注意ください。

「は～い、というわけで今日のお相手は酒呑ちゃんで～す❤きちんとお家にハウスできて偉いね～」
「……喧しい。気安う角に触らんといて」
「お～こわ(笑)酒呑ちゃんはペットのくせに生意気なんだよな～未だに反抗的な目を向けてくるし…元マスターくん、キミの教育どうなってんの？」
みち…
しゅてんのおうち

「旦那はんはあんたみたいな下衆とは違うんや。今に見てみい…必ず思い知らせてやるさかい。噛み砕かれとうなかったら今のうちに――」
「仕方ないからキミの代わりにボクが教育してあげてるんだよ～」
『まずは今日もその悪いお口からおしおきだね♥』
『……っ』
みち…
しゅてんのおうち

「あ、心配しないで？
生意気な口はきいてるけど
身体は全く抵抗できないし
そ・れ・に――」
みち…
しゅてんのおうち

「あ、心配しないで？
生意気な口はきいてるけど
身体は全く抵抗できないし
そ・れ・に――」
「危ない牙は抜いちゃったから
僕のち◎ぽは安全だよ❤
ついでに他の歯も全部(笑)
こんなお口でどーやって
噛み砕くんだろうね～(笑)」
「ふぐ…っ」
ぐぽぁ
「ひひ❤ フェラ専用に改造した
お口ま◎こ気持ちよさそ～❤」
「ペットにした鬼の扱い方を
これから教えてあげるから
しっかり見てるんだよ～
元マスターくん❤」
みち…
しゅてんのおうち

「はい酒呑ちゃん
ち◎ぽにチュ〜❤」
「く……っ
ぷちゅ〜❤」
「うひひ❤
そうそう、ご主人様への
愛を込めてね〜(笑)」
「……っ」
「じゃあ酒呑ちゃんの
お口オナホの使い方を
説明しま〜す❤
まず鬼には頭に便利な
ハンドルがついてるので
がっちり掴みま〜す」
「体勢は自由で〜す。
鬼はとっても丈夫なので
どんなに負担をかけても
大丈夫❤
そしたら後はカンタン！
お口に当てがったち◎ぽを
喉奥まで一気に――」

「ねじ込むっ!!」
ズ
ブッ
ブッ

「おっ❤おほっ❤
ほっ❤ほっ❤ほっ❤
ほほぉっ❤」

ギュギュ
ぼりっ

「ほほ❤これこれぇっ❤
せまっせまの喉に
ち○ぽみっちりぃ❤

全体重をかけて喉奥
抉ってもビクともしないっ❤
この耐久力が鬼オナホの
最大の魅力うっ❤❤」

ブブブ

ごーごー
ちゅっ

ぐぐぐ
ぼりぼっ

「扱いやすい小柄な身体っ❤
まさにオナホになるために
生まれた生物うっ❤❤

おらどうだっ❤❤
人間様のち○ぽで
退治される気分はっ❤」

「そうだ使い方っ❤ひひ❤使い方だったね❤」
ぐっぐっぐっぐっぐっぐっ
「息ができないように喉から抜かないのがポイントだよっ❤粘膜をこそぎ落とすよう扶れたらなおグッド❤それからお口をきゅっとすぼめさせるのもおすすめっ❤」
ちゅ〜ちゅ〜
キュッキュッキュッキュッ
「ちゅ〜する形のお口からち〇ぽねじ込んで歯茎のこりこりした感触を愉しむのが抜歯フェラの醍醐味だからねぇっ❤❤」

「おっ❤おほっ❤」
ぐりゅっ
「いひひ❤こーやって酒呑ちゃんが酸欠になってち○ぽに吸いつき出したらラストスパートっ❤」
ちゅぢゅぢゅ
ちゅ
ビク
ミシミシ
「必死に呼吸したがってる酒呑ちゃんにっ❤空気の代わりにっ❤ひひっ❤」
ぢゅぢゅ
「こってり特濃精子をっ❤胃にめがけて直接うっ❤」
ビク
ビク

「排泄ぅっ♥♥」
ド
!!!

「い❤ひひぃ❤金玉の奥にある分まで吸われるぅ❤吸われちゃうぅ❤❤」
ビュビュッ
ブチュウウッ
「あ〜ち○ぽで鬼退治❤最高っ❤ひひひひ❤そんなに一生懸命吸っても ち○ぽからは精子しか出ませんよぉ〜❤❤」
ぢゅるるるッ
ビクッ
ビクッ

ゲボッ!!
ゲェェェッ
ごぼっ
ガワ
ガワ
ガワ
ドロ
「あ〜あ〜
また吐いちゃった(笑)
ひっひ❤
いっぱい射精たなぁ〜❤」
「ごめんね〜
酒呑ちゃん
苦しかったね〜❤
あ、後でソレ
ちゃんと綺麗に
食べてね(笑)」
「さて…酒呑ちゃんも反省
したみたいだしこれで
悪いお口へのおしおきは
終わりかな。あとは――」

「舌のお口にご褒美だねっ♥」
ズ
ブ
あぎぃ!?

「おほ❤キツぅ～❤酒呑ちゃんの鬼ま○こちっちぇえ～❤❤」
「足首よりぶっとい規格外ち○ぽを軽々受け入れちゃうなんてさすが全身オナホの低身長サーヴァント❤今度はこっちから内臓ごといっぱい愛してあげるから気をしっかりね～❤」
「ひひぃ❤酒呑ちゃんの中僕のおち○ぽでいっぱいになっちゃったね～❤子宮の奥にある柔らか～いのは内臓かな？(笑)」
み
ちゅ
ガワ
ガワ
かは
あ

「ちょ～っと膣の底が浅いのが難点だけどぉ～それも工夫次第だし❤」
おぐ
ぐっちゃ
ぐっちゃ
ぐっちゃ
「ふんっ❤ふんっ❤ぶふっ❤あ～酒呑ちゃんオナホ気持ちいいっ❤❤」
おぐ
ボコボコオオ
「軽くて振るにもちょうどいいしこのハンドルがホント便利(笑)」

「子宮の奥まで一気にぶち抜けばぁ～～～♥」
やめ
ズブッ
ズブッ
ズブッ
「こ～やって勢いをつけて♥」
ぴ
ぴ
ズルウウ…

ほ?
「ほぉ〜ら根元まで全部入ったぁっ♥」
どぢゅっ
ズブッ

ほぉ?
「ほぉ～ら根元まで全部入ったぁっ❤」
みぢぢ
ガク
メリ
ガク
ほぉ!
ぎぁぁ～っ!?
「あ～ごめんね～また息できなくなっちゃったかな～❤でも僕のち○ぽは気持ちいいからね～このまま続けるね～❤」
ガク
ズブブ

おぺ
「酒呑ちゃんオナホは子宮口ぶち抜いてからが本領発揮だよねっ❤❤この薄ぅい子宮壁一枚越しに感じる柔らかぁい内臓の感触っ❤」
ぐぐちゃっちゃっ
「ふんっ❤ふんっ❤ふんんぅっ❤❤おほ～最っ高❤❤」
どちゅっ
どちゅっ
どちゅっ
おぉ
「これをっ!!ち○ぽで押し潰すのが気持ちいいんだぁ～❤」

「あ、ちなみに酒呑ちゃんには子宮をち〇ぽで突かれるたびに防御デバフがかかるようにしてま～す(笑)」

ぐぐちゃっ

ぐぐ

ぐちゃっ

ぐぐ

ぐちゃっ

ぐぐ

ビッ
ビッ
ドビュッ
ビュッ
ビュッ

「は～い❤というわけで
元マスターく～ん
いかがだったでしょうか～
途中から置いてけぼりにして
盛り上がっちゃってごめんね～(笑)」
「……う……」
「酒呑ちゃんとはいっつも
こんな感じで鬼退治プレイを
楽しんでま～す❤
あ、一応まだ生きてるから
安心して(笑)
あれだけ防御デバフかけた
のに～
元が人間じゃないから丈夫なのかな？
鬼でよかったね～酒呑ちゃん❤
ゴボ
ドロ
ブチュ
ブブ
「……や❤……め……」
「あ、ちなみに――」
ミキメキメキ

「キミから貰ったサーヴァントたちはみ～んな受肉させた上で弱体化してるから❤こんな風に折っちゃった角は二度と元に戻りませ～ん(笑)」
バ
キッ
ビクッビクッ
ブシャッ
だんだんはげ
ずっ
ビクッビクッ
ベキキッ
「酒呑ちゃんは少しずつ壊して愉しもうと思ってるから(笑)使い潰して廃棄寸前になったらもう一回見せてあげるのでお楽しみに～❤」

「う…っ」

彼女の角が
踏み折られた瞬間――
俺は射精していた…

触ってもいないのに
ズボンの中で…

そしてそれを見計らったように
すぐに次の映像が流れる…
一体いつまで続くんだ…

「お久しぶりです先輩♥…と言っても、そちらでは続けて映像が流れているのでしょうか…ともかく、こちらではアレから早一ヶ月が経ちました」
「アレっていうのはキミのマシュちゃんが僕のモノになった日のことだよ(笑)」
「そんなこと…自分のサーヴァントを寝取られているのに勃起したりましてや射精したり…先輩がするはずありませんっ♥」
「寒い監禁部屋で私たちの寝取られ動画を見せられ…さぞお辛いでしょう？救出が遅れているばっかりに…すみません」
「いやいや、案外興奮してるかも…(笑)」
「私は先輩のコト信じていますから…先輩も私のコト信じて待っていてくださいね♥」
ギンギン
むちっ
たゆんっ

「はいはい(笑)それより今日はこれから何するんだっけ?」
「今日は…これから毎朝しているご主人様へのご奉仕をさせていただきます♥
…あっ♥心配しないでください先輩♥これは全部従っているふり…ご主人様を油断させるための作戦ですから…♥」
「それに良いこともあるんですよ♥私に魅了が付与されるのは膣内射精が条件なので…お口に射精される分にはまったく問題ないんです♥
こうやって少しでも金玉の中を減らしておけば…
…まあいつも結局膣内射精されちゃうんですけど…」
「言い訳はもういいから(笑)ほら早く始めて~」
「はいご主人様♥…それじゃあ始めますね、先輩♥」
ギンギン
むちっ
たゆんっ

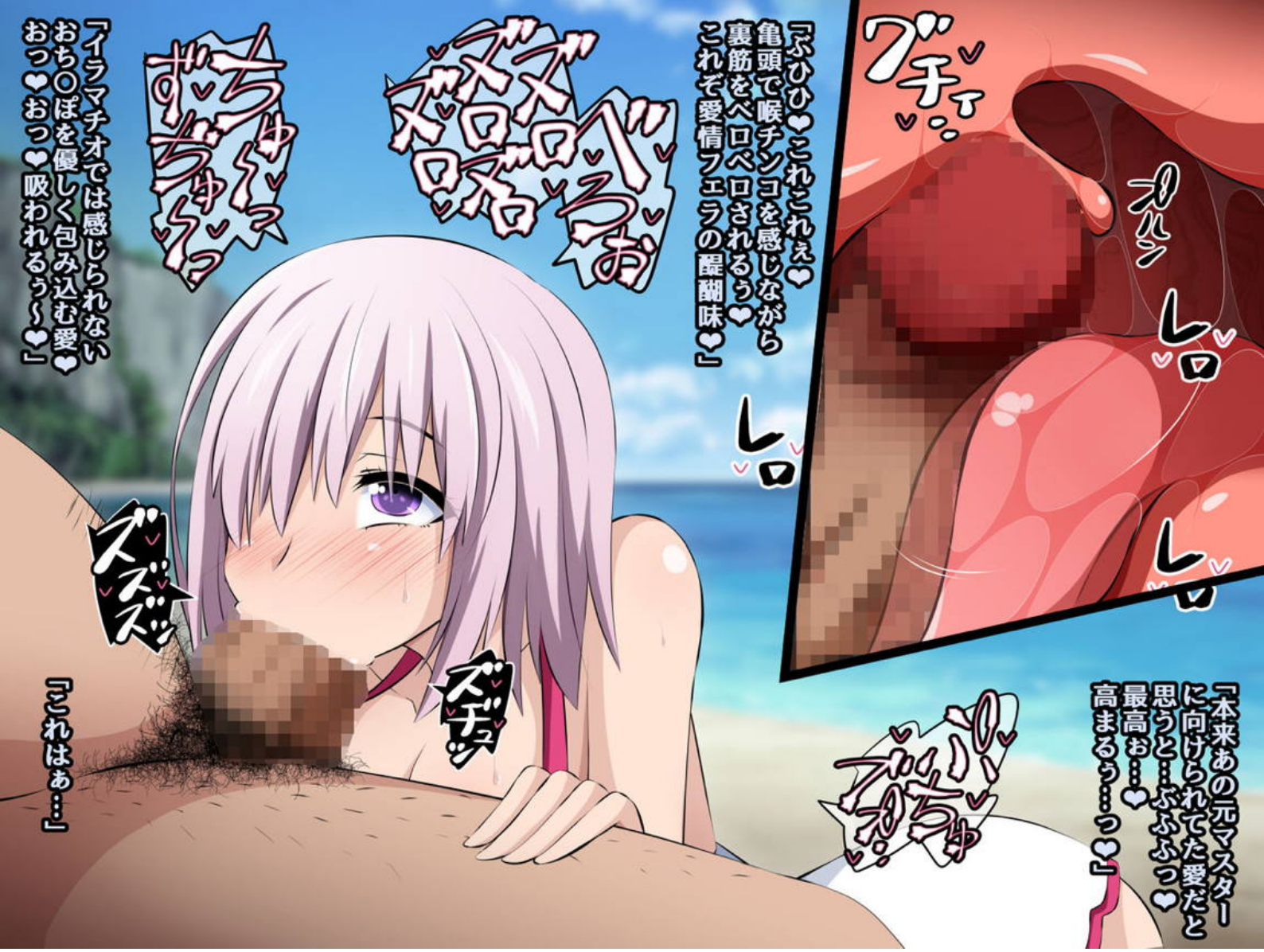
ぢゅっ
『うひょっ♥』
ヌブッ
ブチュッ

ぶっちゅ
ぶっちゅ
ぶっちゅ
ぶっちゅ
ぶっちゅ
ちゅっちゅっちゅっちゅっちゅっ
「うひょっ♥」

ぢゅっ
ぢゅっぢゅっぱっぱっ
「うひょっ❤」
ズ
「ん～いいよ～上手上手❤上達したなぁ～❤この一ケ月いっぱい練習したもんね～❤」
ぶっぢゅ
ぶっぢゅ
ぶっぢゅ

ぢゅっ
ちゅっ
ちゅっ
ちゅっ
ぱっ
ぱっ
「うひょっ❤」
「ひひ❤そうそう、お口いっぱいに使って～おち○ぽ愛してあげて❤」
ずぢゅるっ
ずぢゅっ
ずぢゅっ
ずぢゅっ
ぶっちゅ
ぶっちゅ
ぶっちゅ
ぶっちゅ
ぶぶぶぶ
ズ
「ん～いいよ～上手上手❤上達したなぁ～❤この一ケ月いっぱい練習したもんね～❤」

ぢゅっ
ちゅっちゅっちゅっちゅっ
「うひょっ❤」
「ひひ❤そうそう、お口いっぱいに使って～おち○ぽ愛してあげて❤」
じゅるっずちゅっずちゅっずるっ
ぶっちゅ
ぶっちゅ
ぶっちゅ
ぶっちゅ
ぶぶぶぶ
ズ
「ん～いいよ～上手上手❤上達したなぁ～❤この一ケ月いっぱい練習したもんね～❤」
「マシュちゃんの初めてを奪ってくれたおち○ぽ様への感謝を込めてね～❤」


ブチィ…
ボルン
レロ
レロ
「本来あの元マスターに向けられてた愛だと思うと…ぶふふっ❤最高ぉ…❤高まるぅ…っ❤」
「ふひひ❤これこれぇ❤亀頭で喉チンコを感じながら裏筋をベロベロされるぅ❤これぞ愛情フェラの醍醐味❤」
ベロベロベロベロ
ちゅるっ
ずちゅるっ
レロ
ズズズッ
ズチュッ
「イラマチオでは感じられないおち○ぽを優しく包み込む愛❤おっ❤おっ❤吸われるぅ～❤」
「これはぁ…」

ブラ…
メトラ…
「射精…」
ズブブ…

ゴリッ
ドビュッ
「射精…」
ビュビュッ
ビュビュッ
ブッモ
ドッ
ブビッ
「不可避いっ♥」

ゴリッ
ドビュッ
「おっ❤おほぉ❤射精るぅ〜❤マシュちゃんのお口に愛されて精子漏れるぅ〜❤」
ビュッ
ビュッ
ビュッ
ビュッ
ビュッ
ビュッ
「あ〜最高っ❤マシュちゃんのお口に精子ぶちまけるの幸せ過ぎるっ❤
こんな愛情たっぷりにご奉仕してくれるなんて…ひひっ❤一ヶ月洗脳し続けたかいがあった〜っ❤」
ギュッ
ギュッ
ギュッ
ギュッ
ギュッ
ギュッ
「飲んでっ❤マシュちゃん飲んでっ❤マシュちゃんのためにご主人様が排泄してる精子❤全部飲んでぇ〜❤」
ドボッ
ブビッ

えぱぁ…ゲフゥ
「ひひひ❤全部飲めたね～❤美味しかった？」
はひ…
「ご主人様と元マスターどっちが好き？」
ぜんぱい…
メポォ…
「う～ん、もう少しかぁ…ホントにマシュちゃんのキミへの想いは底が知れないな～…精液飲んでトロけてるくせに羨ましいよ～先輩(笑)」
「でもその分コレが全部僕の方へ向いたときを想像すると…ひひひ❤あ～楽しみ❤」

「よしっ❤これからは日に三回くらい膣内射精しちゃおうかな！ね～僕のマシュちゃん❤」
あっ
はぁ
「あ、もちろん他のサーヴァントも忘れずに❤アレから一ヶ月…他のコも大分洗脳進んでるよ❤」
キュン
「じゃあ元マスターくん、そういうことだから❤ちょっと本気で堕としにかかりま～す❤次回のマシュちゃんにぜひご期待ください(笑)」
ズポポォ
「それじゃあ次の動画をどうぞ～(笑)」

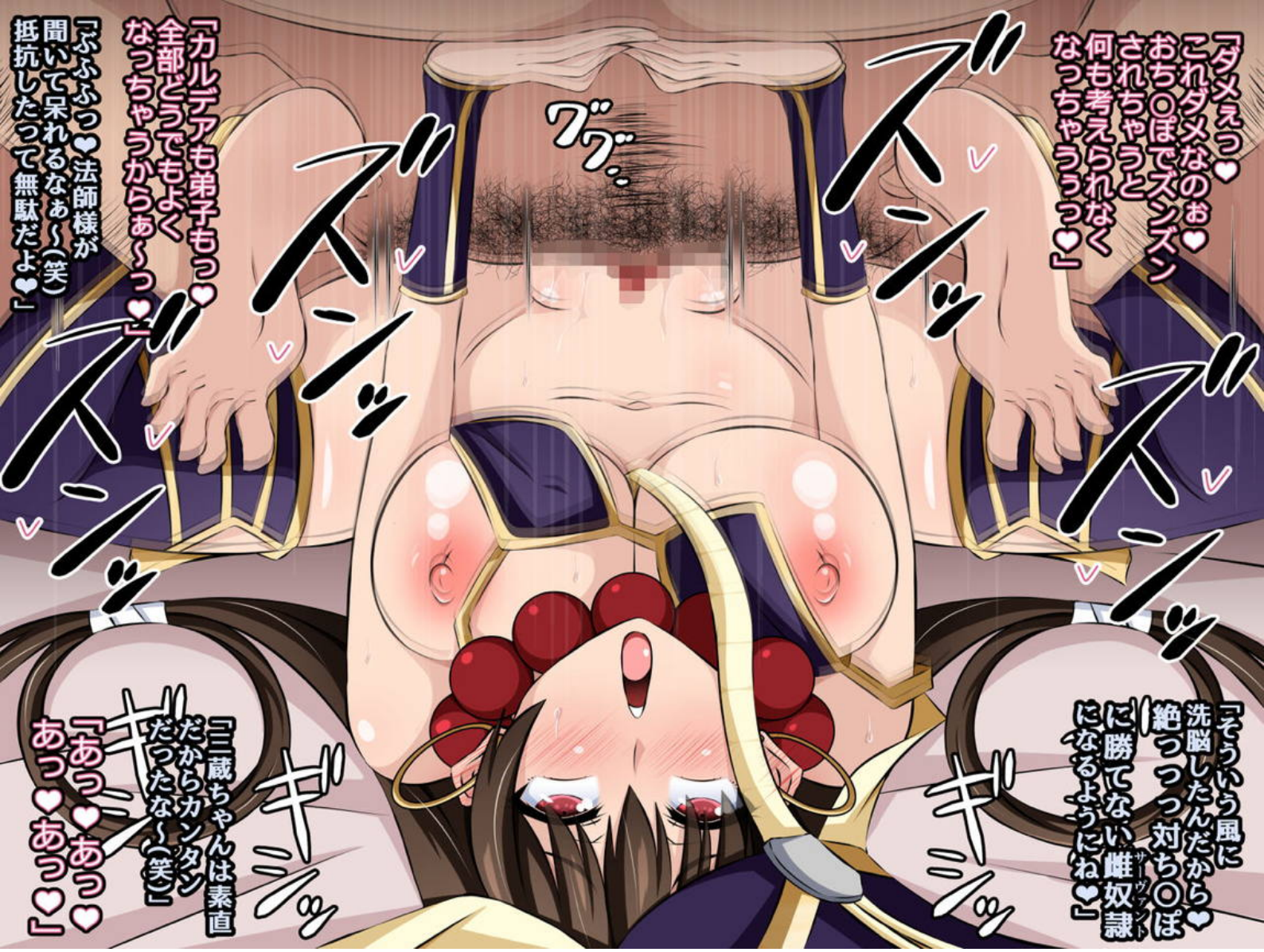
「やっほ～弟子い～♥見てる～？」
「あんたとの契約がなくなってからしばらく経つけど…元気にしてる？あたしは元気よ♥」
「おほ～三蔵ちゃんのおっぱい柔らけ～♥この身体で御仏がどうのとか言われてもな～(笑)」
ん
もみ
もみ
もみ
あ
たゆん
「あ、というわけで次は三蔵ちゃんのターンで～す♥」

「ほら三蔵ちゃん『元』弟子に言うコトあるでしょ？」
「は、はいご主人様…♥」
あ
「弟子い…あのね…あたし…あんたが捕まってる間にご主人様のモノにされちゃった♥もちろん弟子がときどきイヤらしい目で見てたこのおっぱいもね♥」
「ひひひ♥この柔らかボディに指一本触れたこともないとはもったいないことしたね～(笑)」
ん
「言ってくれれば…ちょっとくらい…」
ボン
もみ
もみ
もみ
たゆん
「もう君は絶対できないんだよ♥この罰当たりなおっぱいをこんな風に揉みしだいたり…」

あっ
「こんな風にっ♥」
ブチュウ～
「むしゃぶりついたりねっ♥」

んこハう
「んん～❤三蔵ちゃんのおっぱいうまうま～❤絶対母乳出るようにしてやるからなぁ～…っおらっ❤今日も『修行』始めるぞっ」
「ん❤は、はい…っ❤ご主人様…❤……じゃあ…始めるわね❤あたしとご主人様の『修行』…見るの辛いかもだけど…これも修行だと思って頑張って❤」
ちゅぱちゅぱ
ちゅるっ じゅるるるっ
「それに、ご主人様と約束してるの❤あたしが『修行』で一度でも勝てたらあんたを解放してくれるって…」
「あたしに任せといてっ❤今日こそ勝ってみせるから…っご主人様の…凶悪ち○ぽに❤」

「あ～負けぇっ♥負けですっ♥降参っ♥降参んぅ～っ♥」
「ご主人様のち○ぽに勝てるわけありませんでしたぁ～っ♥♥」
「え～もう降参？三蔵ちゃんはホントち○ぽに弱いなぁ（笑）」
「まだ修行始めたばっかりだよ♥もうちょっと頑張って交尾続けないと～♥」
ズンッ
ズンッ
ズンッ
ズンッ
ズンッ
ズンッ
ギシッ
ギシッ
ギシッ
ギシッ
グッ…


「ダメぇっ♥これダメなのぉ♥おち○ぽでズンズンされちゃうと何も考えられなくなっちゃうぅっ♥」
ズンッ
ズンッ
ズンッ
「そういう風に洗脳したんだから♥絶っっっ対ち○ぽに勝てない雌奴隷になるようにね♥」
ギシッ
「カルデアも弟子もっ♥全部どうでもよくなっちゃうからぁ～っ♥」
「ふふふっ♥法師様が聞いて呆れるなぁ～(笑)抵抗したって無駄だよ♥」
ギシッ
「三蔵ちゃんは素直だからカンタンだったな～(笑)」
「あっ♥あっ♥あっ♥あっ♥」

ハギュッ!!
「うひひ♥そうそう…」
「そしたらご主人様がご褒美あげるからねぇ…♥」
「あっ♥らめぇっ♥やめへぇっ♥♥♥♥」
「三蔵ちゃんだって女のコなんだからご主人様にち○ぽ突っ込まれて幸せになってればいいんだよ(笑)」
「しあわせになっちゃうっ♥幸せになっちゃうからぁっ♥♥」
「あ～キタキタ♥金玉から精子昇ってきたよぉ～♥」
ズンッ
ズンッ
ズンッ
ビクッ
ビクッ
ビシャッ

おぉぉ
ぶぴっ
ぶぴぴぴ

おおっ
「あ～やべぇ～射精るぅ～♥小便みたいに出る～(笑)」
ビュルルッ
ブチュウウッ
ビュルルッ
ビュルルッ
「僧侶とガチ交尾♥気ままに膣内射精♥背徳感サイコーすぎて射精とまんね～♥」
ビュルルッ
ビュルルッ
ビュルルッ
ビュルルッ
「らめっ♥あっ♥らめぇ♥」
「だから抵抗しても無駄だって言ってるだろっ♥」
「ちゃんと子宮で覚えろよ～♥これが三蔵ちゃんを堕としたご主人様の精子だぞ～♥」
「おっ♥ほ♥ふぉ…っ♥」

ふーふー!!

「ふほほっ❤豚面似合ってるよ～三蔵ちゃん❤猪○戒に改名したら？（笑）」
ぐぽ
ブチュ
ふゴーっ!!
ギシ
トロ～
「ほらぶひぶひって鳴いてみて❤」
「ぶ❤ぶひっ❤ぶひぃ～っ❤」
ギシ
「そーそー❤一発膣内射精キメた三蔵ちゃんはホント素直だな～❤」

「じゃあここらでいつもの敗北宣言しとこうか❤今回は元マスターも見てるから張り切ってね❤」
ぐぽ
ブチュ
トロ〜
ギシ
ギシ
ギシ
「ぶひぃっ❤」

「私いっ♥玄〇三蔵はぁ♥ご主人様のおち〇ぽ様に完全敗北した雌豚サーヴァントですうっ♥」

ぐぽ

ブチュ

「これからはご主人様にのみお仕えしてえっ♥ご主人様の性欲を満たすためだけに生きていくことを誓いますうっ♥」

「あっ♥あぁっ♥」

ギシ

トロ〜♥

「ふふふ♥元マスターくん…『弟子』はどうするの〜?」

ギシ

「そ…それはぁ…♥」

「ほらはっきり言わないとおち〇ぽ止めちゃうよ♥」

ギシ

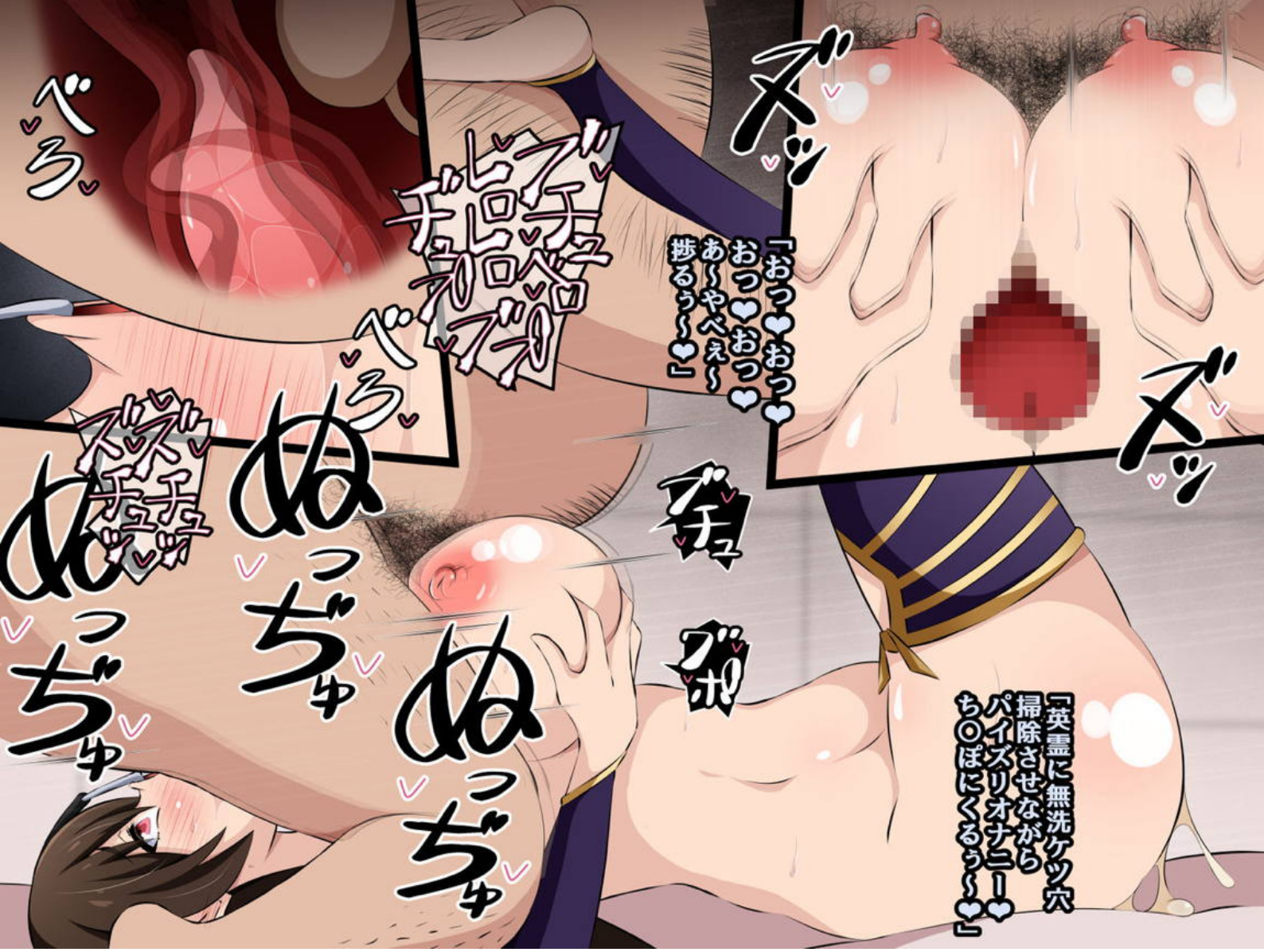
「破門っ♥破門にしますうっ♥」
「どうして〜？」
「あんな短小童貞よりもっ♥カリ高極太ち○ぽの方が百倍大事だからですう〜っ♥」
「はい、よく言えました〜♥コレ見たら元マスターくんどう思うかな〜（笑）かわいそ〜（笑）」
「弟子なんてもうどうでもいいからですうっ♥」
「ぶひ♥いひ…っ♥」
「おっ♥締まる締まる♥」
ぐぽ
ブチュ
ンッ
ンッ
ンッ
トロ〜
ギシ
ギシ

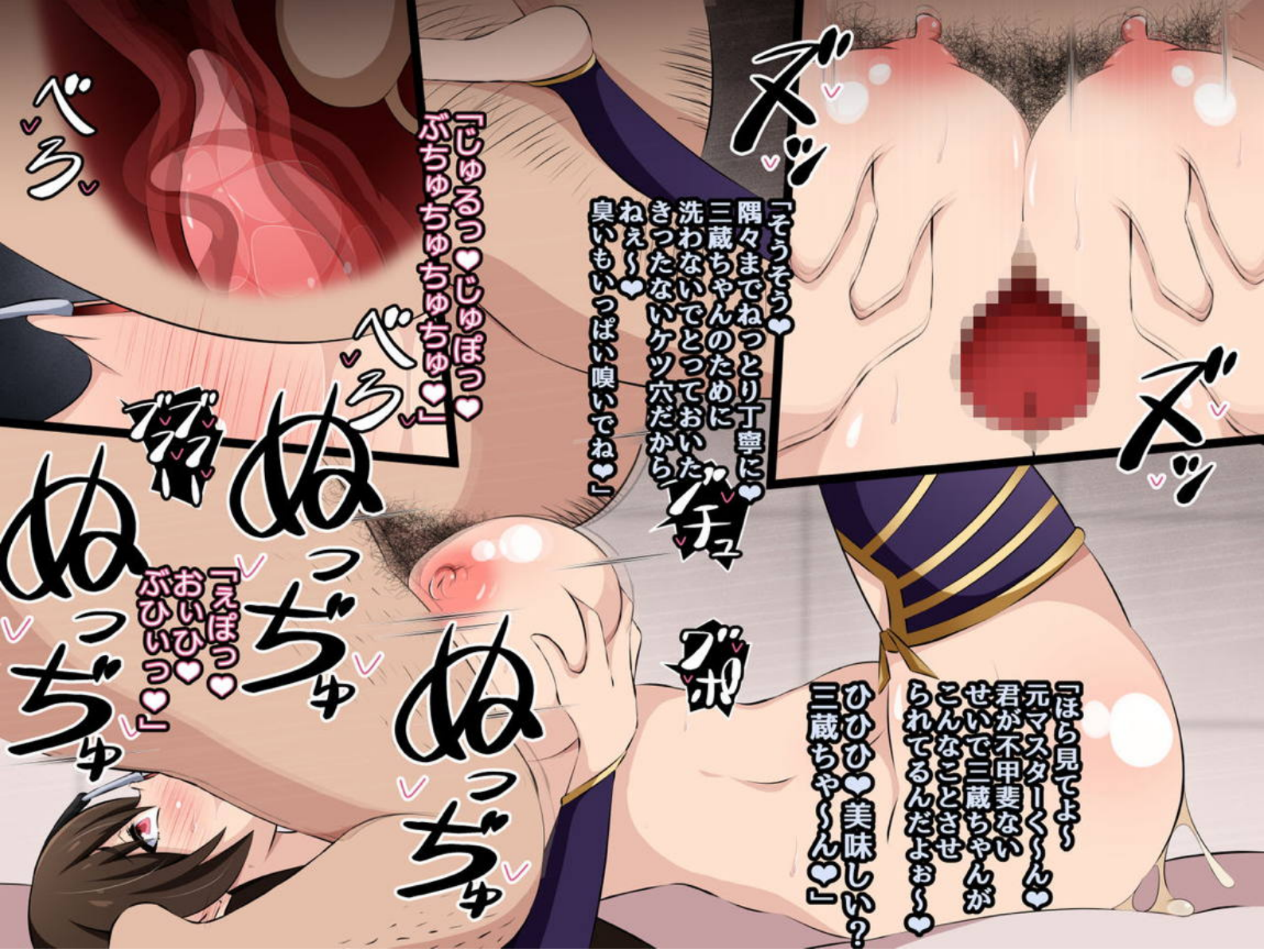
ズッ
ズッ
「おほっ♥」
ぶビュるるッ
ズッ
ズッ

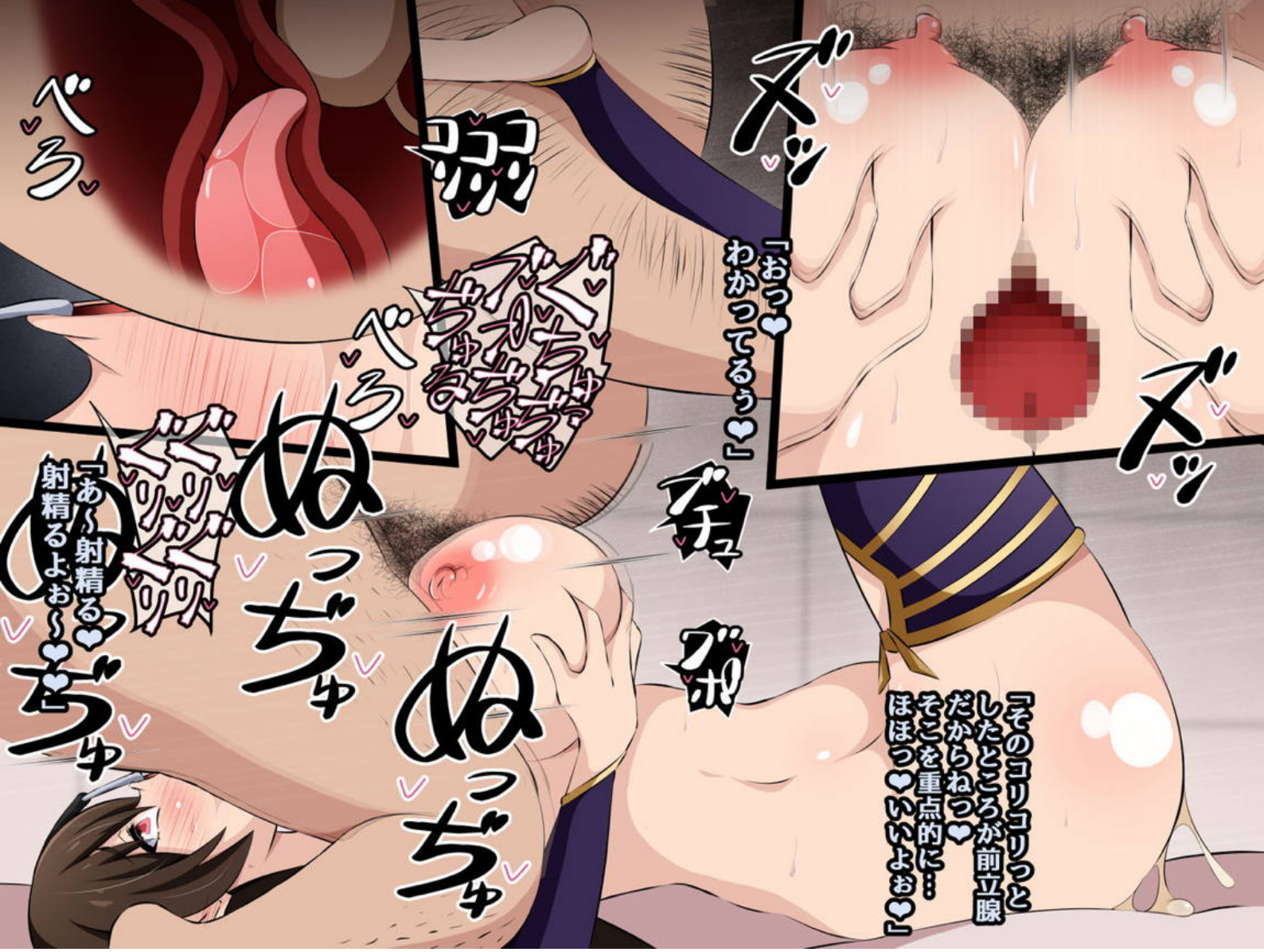
「あ～また射精ちゃった～♥
ちゅ～ちゅ～吸いついて
きゃがってち○ぽに
媚びすぎだろ雌豚ま○こ♥」
ぶるっ
ビュッビュッビュッビュッ
「おほっ♥」
ぶびゅるるるっ
ビクッ
ビクッ
ビクッ

「ほら修行はまだ終わりじゃないよ三蔵ちゃんっ♥自分ばっかり気持ちよくなってないでご主人様へのご奉仕もしっかり覚えなきゃっ♥」
「ふごっ♥ぶひいっ♥」
がっちり…
ドロ
「ひひっ♥がっちり組んで顔面騎乗パイズリのポオ〜ズ♥♥」
ほら三蔵ちゃん♥僕が君のおっぱいでオナニーしてる間どうすればいいか…わかるよね♥」
ズボ
のしっ
「っ♥♥」

「ほほっ❤❤
いいよぉ～三蔵ちゃん
ケツ穴にディープキス❤
長ぁい舌が
にゅるっと
きたぁ～❤」
がっちり…
ドロ
ぢゅぷ
にゅるっ
ゴゴゴ


「英霊に無洗ケツ穴掃除させながらパイズリオナニー♥ち○ぽにくるぅ～♥」
「おっ♥おっ♥おっ♥おっ♥あ～やべぇ～捗るぅ～♥」
ズッ
ズッ
ブチュ
ブボ
ぬっぢゅ
ぬっぢゅ
ぬっぢゅ
ぬっぢゅ
ぶぢゅ
ぶぢゅ
ぶぢゅ
ぶぢゅ
べろ
べろ


「ほら見てよ～元マスターく～ん♥君が不甲斐ないせいで三蔵ちゃんがこんなことさせられてるんだよぉ～♥ひひひ♥美味しい？三蔵ちゃ～ん♥」
「そうそう♥隅々までねっとり丁寧に♥三蔵ちゃんのために洗わないでとっておいたきったないケツ穴だから♥ねぇ～♥臭いもいっぱい嗅いでね♥」
「じゅるっ♥じゅぽっ♥ぶちゅちゅちゅちゅ♥」
「えぇぽっ♥おいひ♥ぶひいっ♥」
ズッ
ズッ
チュ
ブポ
ぬっぢゅ
ぬっぢゅ
ぬっぢゅ
ぶぶ
べろ
べろ


「そのコリコリっとしたところが前立腺だからねっ❤そこを重点的に…ほほっ❤いいよぉ❤」
ズッ
ズッ
「おっ❤わかってるぅ❤」
ブチュ
ブボ
ぬっぢゅ
ぬっぢゅ
ぢゅぢゅぢゅぢゅぢゅぢゅ
ぢゅぢゅぢゅぢゅぢゅぢゅ
ぢゅぢゅぢゅぢゅぢゅ

「ふおぉぉぉ～っ♥お～っ♥」
ブシャッ
ビュッ
ビュッ
ビュッ
ビュッ
ビュッ
ビュッ
ハ♥ハ♥ハ♥
ハ♥ハ♥ハ♥
ハ♥ハ♥ハ♥

「ひひひっ♥イイねぇ三蔵ちゃん♥」
ブシャッ
「おっ♥♥おほ…っ♥」
「嬉しそうにイッちゃって♥」
ビュッ
ビュッ
ビュッ
ビュッ
ビュッ
ビュッ
ハ
ハ
ハ

「おほっ!?♥♥」
「はい三蔵ちゃん最後におち○ぽ綺麗にしてね♥後片付けまでが修行の一環でしょ」
ぐぃ
ブゴゴ
「はぁはぁい♥くっさいち○ぽ♥綺麗に掃除させていただきまぁす…♥」
ヌロ…

ぢゅぱぱぺぺぺぺ
ぢゅるぢゅぢゅぬろろ

「そうそう♥
三蔵ちゃんを
躾けるために
汚れちゃった
お○ぽ様に
感謝を込めて
丁寧にね～♥」

ぺろ

ぺろ

ゴゴゴ

「はひ♥べろぉ♥
ありがとう
ございましゅ
お○ぽ様あ♥
べろべろぉ♥
ふごっ♥」

「ひひ、鼻ならしちゃって
三蔵ちゃんはホントに
くっさい臭いが好きだな～♥」

ぢゅぱぱぺぺぺ

「じゃあ三蔵ちゃん♥おち○ぽ掃除しながら元マスターにきちんとお別れしとこうか♥
修行中に言ってたよね？彼はもう破門にするって（笑）」
「ぶひ♥はひいっ♥
弟子～ごめんね♥そんなわけだから…あんたのこと助けられなくなっちゃった♥」
ぺろ
ぺろ
ブゴゴ
「あたしこのおち○ぽ様に完全敗北しちゃってぇ♥ご主人様のモノになっちゃったから♥べろべろべろ♥あ～ち○ぽうま♥」

「じゃあ三蔵ちゃん♥おち○ぽ掃除しながら元マスターにきちんとお別れしとこうか♥」

修行中に言ってたよね？彼はもう破門にするって(笑)」

「ぶひ♥はひいっ♥

弟子～ごめんね♥そんなわけだから…あんたのこと助けられなくなっちゃった♥」

ぺろ

ブゴゴ

「あたしこのおち○ぽ様に完全敗北しちゃってぇ♥ご主人様のモノになっちゃったから♥べろべろべろ♥あ～ち○ぽうま♥」

ぺろ

「は～い♥そういうわけだから…三蔵ちゃんのことも諦めてね～この映像でいっぱいシコシコしていいからさ♥」

「あ、でも拘束されてるんだっけ(笑)自分のち○ぽも触れないなんてかわいそ～こっちは三蔵ちゃん使いまくってんのに……♥」

「ふふっ♥」
ドピュッ
ブビビッ
ハッ!?
ブビッ

「あ、ごめんね射精ちゃった♥
今までず～っと一緒に頑張ってたマスターから横取りした三蔵ちゃんが僕のお○ぽ舐め回してると思うとさ～♥」

ドピュッ

ブビュッ

「ごめんね～君の三蔵ちゃん雌豚にしちゃいました～♥
鼻の穴に射精されてイッてるようじゃもうダメだね(笑)」

「えひ♥おほっ♥ぶひひい♥ブタ鼻イキ最高お～♥」

ブビッ

「は～い、じゃあ三蔵ちゃんが完堕ちしたところで一旦そちらにお返しします～す♥」

「しばらく余韻をお楽しみください～い(笑)」

「くそ…くそ…っ
なんで…また…っ」

また…精子が
パンツの中を汚す…

自分の身体なのに完全に
制御がきかなくなっていた…

ヤツの言う通り
触れてもいないのに…
……俺を弟子と
言ってくれていた
『お師さん』……

彼女が奪われたと思った
瞬間……

ビュビュッ

ビュッ

「……くそ…
いつまで続くんだ…」

しばらくして、
また画面が切り替わる…
次はいったい…誰なんだ…

ジワ…

「いかがですかぁ
ご主人様♥
パイズリ…
上手にできてる
でしょうか♥」
「うん上手上手〜♥
あ、ところでもう
撮影始まってるよ
マシュちゃん(笑)」
もみん
ちゅぱ
「え?……あ。
そ、そうでした♥
え〜と……先輩?
元気にしてますか?」
「いや元気では
ないでしょ
拘束されてる
んだから(笑)」
「あ、そっか…
すみません、先輩♥
もう少しだけ頑張って
くださいね♥
ご主人様ったらなかなか
油断してくれなくて…♥」
もみん
「そうかな〜?
そんなことないと
思うけど…(笑)」

「あ、ちなみに私は引き続き南の島で過ごしています♥前回からさらにひと月といったところでしょうか…」
ご主人様と二人っきりのビーチで色んなことを仕込まれてしまいました…♥」
「ボク好みに色々仕込んじゃいました～♥」
もみん
ちゅぱ
「パイズリもそのひとつ…ほら見てください先輩♥赤ちゃんを育てる大切な器官をこんな風に使うなんて最低ですよね♥
でもそれがすっごく興奮するみたいです♥」
もみん

「あ、ちなみに私は引き続き南の島で過ごしています♥前回からさらにひと月といったところでしょうか…」
「ご主人様と二人っきりのビーチで色んなことを仕込まれてしまいました…♥」
「ボク好みに色々仕込んじゃいました～♥」
「だからこうやってぇ♥おっぱいでぎゅ～ってち○ぽをもみもみしながらぁ…♥」
「おっ♥おっ♥」
「パイズリもそのひとつ…ほら見てください先輩♥赤ちゃんを育てる大切な器官をこんな風に使うなんて最低ですよね♥」
「でもそれがすっごく興奮するみたいです♥」
ぬぬレロ
ぬちゃちゃレロ
チャ
もみん
べろ
べろ
もみん

「あ、ちなみに私は引き続き南の島で過ごしています♥前回からさらにひと月といったところでしょうか…」
「ご主人様と二人っきりのビーチで色んなことを仕込まれてしまいました…♥」
「ボク好みに色々仕込んじゃいました～♥」
「だからこうやってぇ♥おっぱいでぎゅ～ってち○ぽをもみもみしながらぁ…♥」
「おっ♥おっ♥」
「パイズリもそのひとつ…ほら見てください先輩♥赤ちゃんを育てる大切な器官をこんな風に使うなんて最低ですよね♥」
「でもそれがすっごく興奮するみたいです♥」
もみん
べろ
べろ
ぬぬレロ
ぬちゃぬちゃレロ
もみん

「あ、ちなみに私は引き続き南の島で過ごしています♥前回からさらにひと月といったところでしょうか…」
ご主人様と二人っきりのビーチで色んなことを仕込まれてしまいました…♥」
「ボク好みに色々仕込んじゃいました～♥」
もみん
「だからこうやってぇ♥おっぱいでぎゅ～ってち○ぽをもみもみしながらぁ…♥」
「おっ♥おっ♥」
べろ
べろ
「パイズリもそのひとつ…ほら見てください先輩♥赤ちゃんを育てる大切な器官をこんな風に使うなんて最低ですよね♥でもそれがすっごく興奮するみたいです♥」
ぬぬレロ
ぬちゃちゃレロ
チャ
もみん
「舌裏で亀頭をべろべろするとぉ♥」
「ほほほぉ～♥♥♥」

「あ、ちなみに私は引き続き南の島で過ごしています♥前回からさらにひと月といったところでしょうか…」
ご主人様と二人っきりのビーチで色んなことを仕込まれてしまいました…♥」
「ボク好みに色々仕込んじゃいました～♥」
もみん
べろ
べろ
「だからこうやってぇ♥おっぱいでぎゅ～ってち○ぽをもみもみしながらぁ…♥」
「おっ♥おっ♥」
「パイズリもそのひとつ…ほら見てください先輩♥赤ちゃんを育てる大切な器官をこんな風に使うなんて最低ですよね♥でもそれがすっごく興奮するみたいです♥」
ぬぬレロ
ぬちゃちゃレロ
チャ
もみん
「舌裏で亀頭をべろべろするとぉ♥」
「ほほほぉ～♥♥♥」

「ふぉ～っ♥」
「あは……っ♥ほら♥す～ぐ射精しちゃうんですよ♥」
びゅるるるっ
「だってさぁ♥あのマシュちゃんがこんなエロい顔してパイズリするなんて…これ見てる元マスターくんがどう思うかな～って想像したら…ひひ♥」
「お～射精るっ♥噴水みたいに射精るぅ♥」
ぜゅぜゅぜゅぜゅ
「今日も朝からヤリまくってるのにまだこんなに射精るなんて……♥」
「寝取ってる優越感がもう最高でさぁ～♥」
「もう…最低ですご主人様♥」

「気にしちゃダメですよ先輩♥確かに身体は隅々までご主人様好みにカスタムされて寝取られ尽くしちゃってますけどぉ…♥私の心はまだ貴方のモノですから♥」
べとぉ
「他のサーヴァントの方々だってきっと同じです♥だからどんな映像を見せられたとしても気を落とさないでくださいね♥
……まさか興奮して勃起したりしてないですよね？先輩がそんな負け犬鬱勃起するわけないですよね…♥」
ちゅっちゅっ
「さぁどうかな～(笑)まあそれは後々のお楽しみということで…」
「じゃあここらで次のコを紹介しま～す♥マンユちゃんによると心までは堕ちてないサーヴァント…ご覧ください(笑)」

「お薬っ♥お薬くださいっ♥
お願いしますご主人様ぁっ♥
ジャンヌにお薬っ♥
おくすりぃぃ
いひっ♥♥」
「あ～
もうダメだな
この聖女(笑)
注射器見た途端
目の色変えちゃって…」
ぴゅ
はっ
はっ
ちゅう

「これ元マスターくんに見せるって言ったよね？そんなんじゃ幻滅されちゃうよ？」

「しりませんっ♥」

「それよりお薬い…っ♥もう我慢できないんですぅ♥なんでも♥なんでもしますからぁ♥」

「元マスターなんてどうっっっっでもいいですっ♥」

ぜュ

はっ

はっ

ちゃう。

「まったく満足に『待て』もできないなんて犬以下だな…しょうがないなぁほら腕出して」

「あ…っ♥」

「はぁいっ♥♥」
「うわ、注射痕エグぅ(笑)聖女様がこんなヤク中まる出しの腕してちゃダメじゃないの?」
ズズ…
「いいんですっ♥私は聖女じゃありません♥犬以下のキメセク玩具なんですからっ♥だから早く♥早くぅ…♥」
「はいはい…」

「はぁいっ♥♥」
「うわ、注射痕エグぅ(笑)聖女様がこんなヤク中まる出しの腕してちゃダメじゃないの?」
ぢゅうぅぅぅっ
ブスッ
「いいんですっ♥私は聖女じゃありません♥犬以下のキメセク玩具なんですからっ♥だから早く♥早くぅ…♥」
「はいはい…」
ばっ
「ほ~れぷちゅ~っと」

「あ♥あ～～～

ほぉぉぉぉぉ
ズキズキ
「はい、とりあえず一本目終了〜♥軽々と受け入れちゃってまあ…
変な汗かいてるけど(笑)
普通の人間ならもうとっくに死んでるよ？よかったね〜頑丈で」
「はぁ〜……っ♥はぁ〜……っ♥はぁ〜……っ♥」
ブワッ

「あ…っ♥♥♥」
「じゃあ早速使おうかな
ジャンヌのヤクキメ
ぐちょぐちょま○こ♥
そのためにお薬入れて
あげたんだからね～」
ズキズキ
ギン ギン
ぼろん
ブワッ
「ヤクキメま○こで
上手におち○ぽ奉仕
できたら追加でご褒美
あげるからね～」
「死ぬ気で
イキ狂えよ♥」
「はぁ～い
ひひ…っ♥」

「ほぉおおイグぅっ♥♥ヤクキメま○こ」イグぅっっ♥♥♥」
「イグっ♥おっ♥おほぉおお〜〜〜〜〜〜〜〜っ♥♥」
ぎゅむぅぅ
ちゅうっ
ズブズブ
ズブズブ
「あ〜気持ち い〜♥膣内が別の生き物みたいにうねうねぶつとぉ♥」
「やっぱジャンヌのま○こは薬キメさせないとな〜♥」

「おら恥ずかしくないのかこの堕落しきった性女がっ❤膣壁コスる度にイキまくりやがって❤」
「あーーっっ❤❤❤あーーっっ❤❤❤」
ぎゅむぅぅ
ちゅうっ
「こんなアクメ顔さらしながら痙攣セックスする女娼婦にもいないぞっ❤」
「あぁぁあだってぇぇぇぇっ❤❤❤❤」
「だってぇへぇぇぇぇっ❤❤❤❤」
「言い訳があるなら言ってみろっ」

「だって仕方ないのぉっ♥仕方がないんですぅ♥キメセク♥♥知っちゃったぁっ♥ヤクキメま○こほじられる快感頭が覚えちゃったからぁっ♥♥」

ぎゅむぅ

「こんなのズルいっ♥こんなのぉっ♥♥こんなのなかったらもんっ♥♥」

ぢゅっ

「そっかそっか～そうだよね～♥ジャンヌも女のコだもんね～♥どんな拷問に耐えられる女でも催眠とお薬の快楽コンボには勝てないよね～♥しかも致死量ガン無視のヤクキメブースト♥」

「まあ仕方ないよ女のコってそういう生き物だからさ～♥ま○こほじられたらち○ぽに媚びるしかないし♥子宮に射精されたら孕むしか～♥」

「私が生きてた頃はこんなしゅごいのなかったもぉんん～～っっ♥♥♥♥」

「ないんだよねっ❤❤」
ぐっ
ドクン

おおおお

「あ～もう始めてる!!
ボクも一緒にって約束したのに～っ
ご主人様のためにセックス用の
エロコスしてきたんだぞ～」
「ごめんごめん、
ジャンヌがもう我慢
できないって言うから
仕方なくさ～(笑)」
「またぁ？
も～ホントどうしようもない
ヤク中聖女だなあ…」
ほおおおおこっ
ヒラ

「あ～もう始めてる!!
ボクも一緒にって約束したのに～っ
ご主人様のためにセックス用の
エロコスしてきたんだぞ～」

「ごめんごめん、
ジャンヌがもう我慢
できないって言うから
仕方なくさ～(笑)」

「またぁ？
も～ホントどうしようもない
ヤク中聖女だなあ…」

「はははは、人のコト
言えないでしょ(笑)
ほらアスくんにも
お薬あげるから
こっちおいで♥」

「えへへ♥
はあ～い♥♥」

ほおおおおこっ

ヒラ

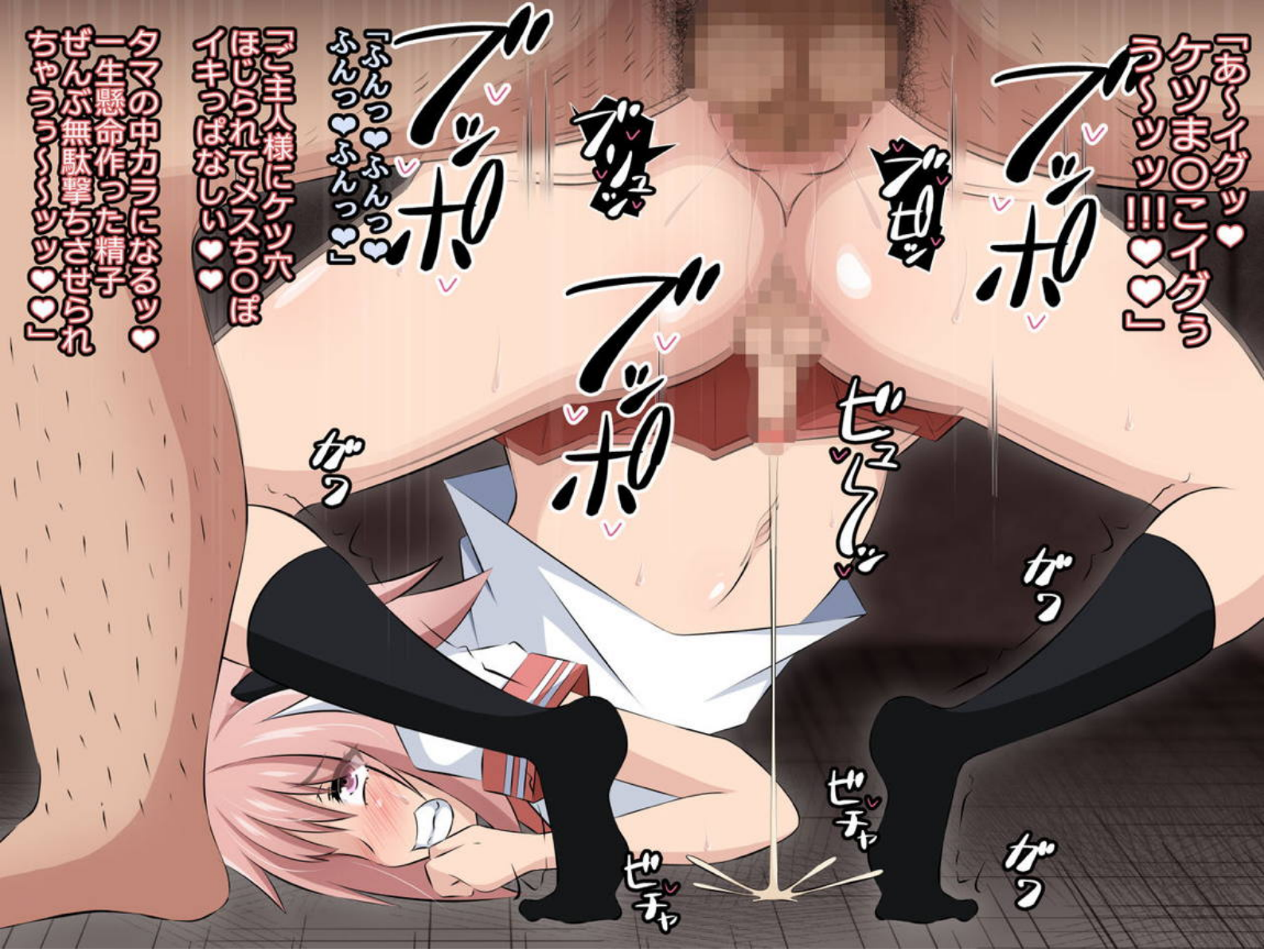
「んぁ～～～～～♥♥」
「はい、じゃあキメる前に元マスターに一言(笑)」
あ～♡
「ふぇ？元マスター？……ああ、そういやコレ見せるんだっけ～もうあんなヤツどうでもいいんだけど…(笑)」
ゼラ

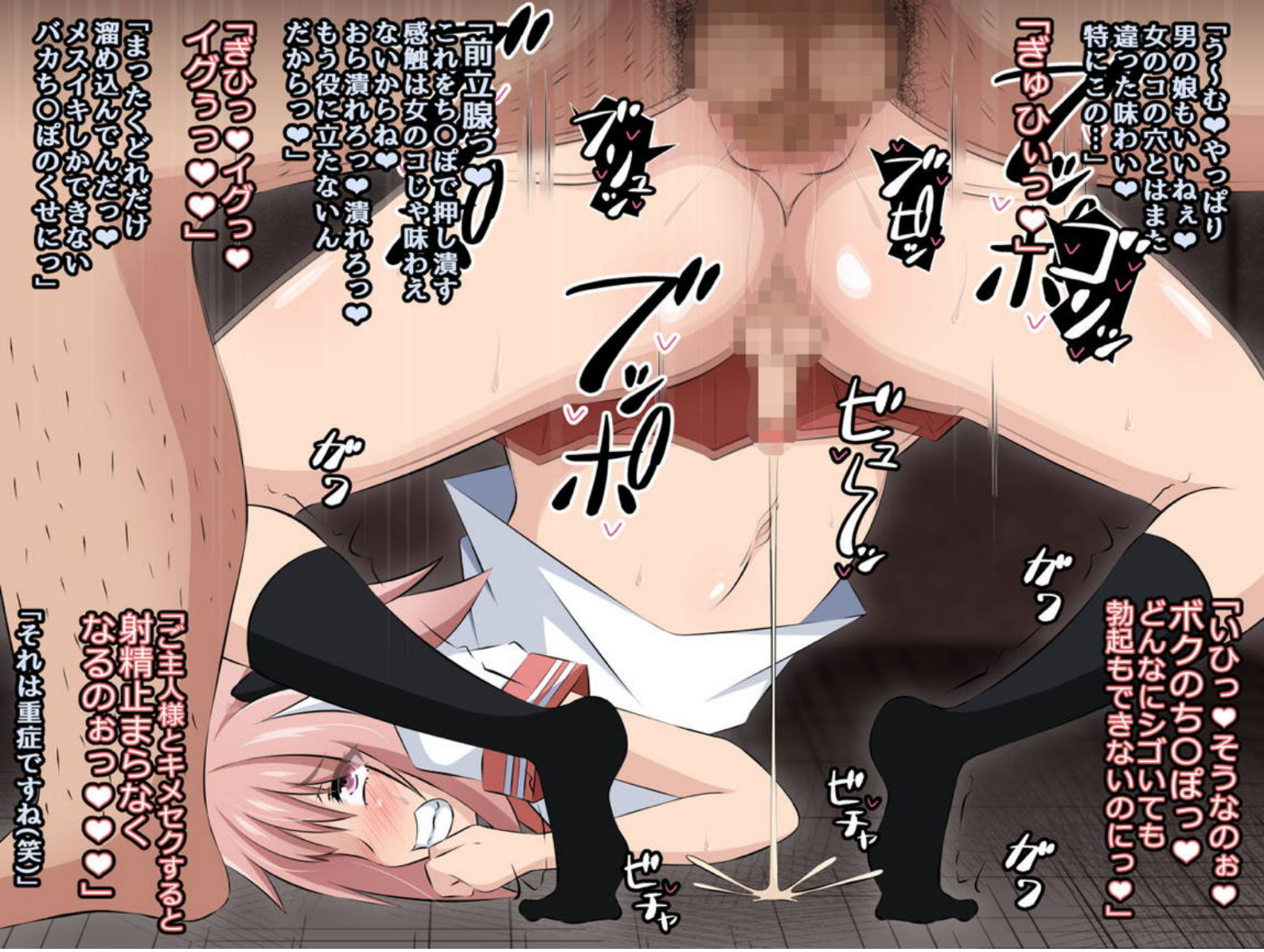
「やっほ～
元マスター見てる～？
催眠と薬とち○ぽには
勝てなかった『元』
キミの剣で～す♥」
あ～♡
「今からボクもキメセク
するから～♥
情けな～いクズち○ぽ
おっ勃たせてしっかり
見ててね～♥
ボクのお気に入りは
この錠剤♥
胃からガツーンとくる
感じがイイんだ～♥
そ・れ・じゃ・あ…ひひ♥
いっただき
まあ～す♥」
ゴクッ

「あ～むっ♥」
あ
む
ゴクン
ペラ

「……んはぁ～♥
これこれ…っ♥♥♥
空っぽの胃でイケない
お薬が溶けるの感じ
るぅ…っ♥」
ブワっ
あ
む
「へへへ、知ってるぅ
元マスター？
この錠剤い♥
普通の人間なら一粒で
廃人確定の超ヤバい
ヤツなんだって～♥
でもサーヴァントだから
いくらでもキメ放題♥
イイでしょぉ～♥♥」
ゴックン
ビン

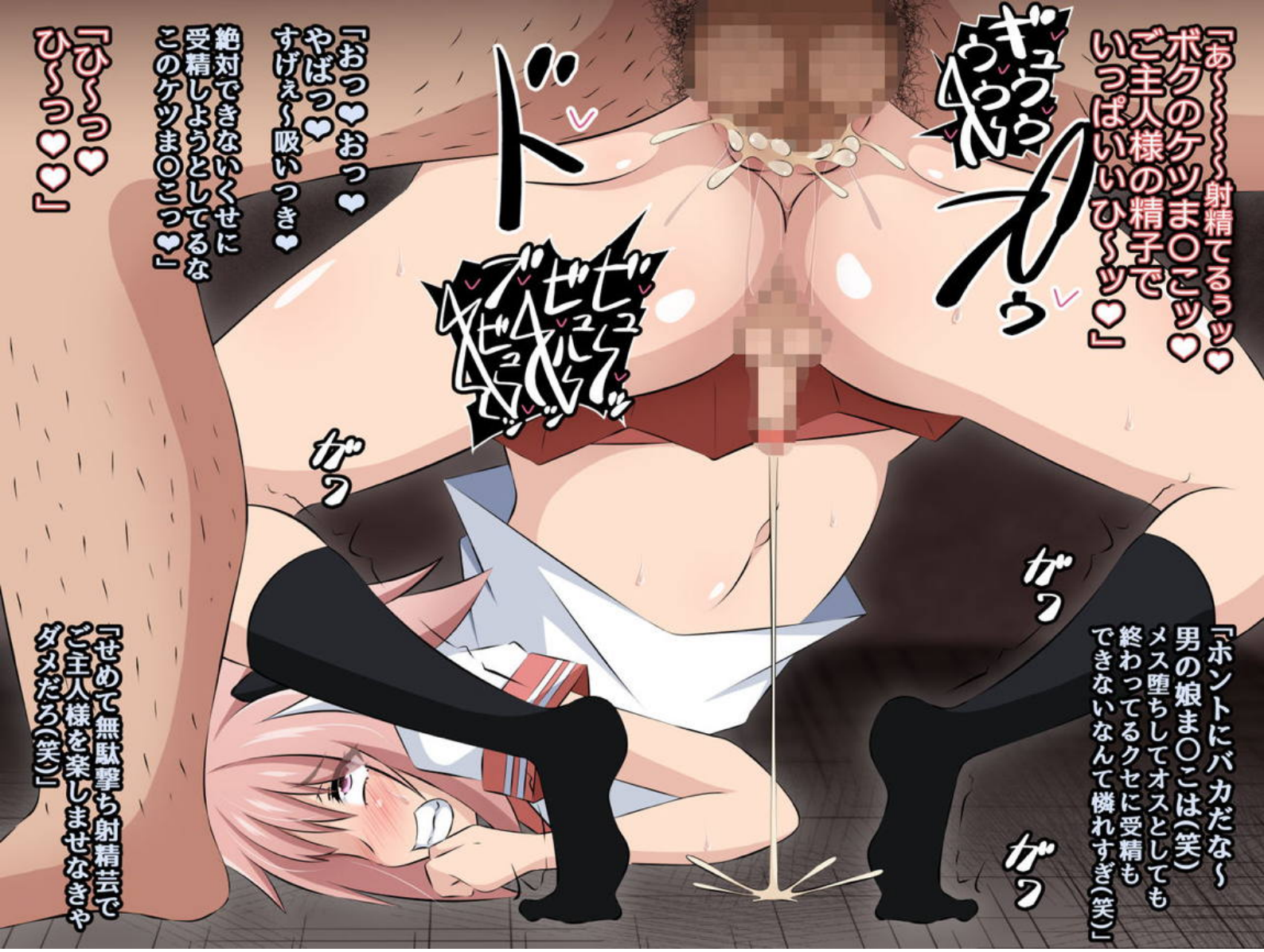
「あっ♥軽くイッちゃった♥」
うぐ
「お薬で雌ち○ぽバカになってるぅ♥ご主人様にケツま○こほじられるのぉ…期待して♥勝手にぃ♥」
「ひひひ♥準備完了だね♥それじゃあ…始めよっかアスくん♥」
「はぁ～いっ♥」
ぜュッ
ビビクク


「あ〜イグッ♥ケツま○こイグぅぅ〜ッッ!!!♥♥」
ブッポ
ブッポ
ブッポ
ブッポ
ブッポ
「ふんっ♥ふんっ♥ふんっ♥ふんっ♥」
ゼュゼュゼュ
ゼュゼュゼュ
「ご主人様にケツ穴ほじられてメスち○ぽイキっぱなしぃ♥♥」
ガッ
ガッ
ガッ
ガッ
ゼチャ
ゼチャ
タマの中カラになるッ♥一生懸命作った精子ぜんぶ無駄撃ちさせられちゃうぅ〜〜ッッ♥♥」


「う～む♥やっぱり男の娘もいいねぇ♥女のコの穴とはまた違った味わい♥特にこの…」
「ぎゅひいっ♥」
ブボッ
ブボッ
ブボッ
ブボッ
「ふいひっ♥そうなのぉ♥ボクのち○ぽっ♥どんなにシゴいても勃起もできないのにっ♥」
ガク
ガク
ガク
ビュルッ
ビチャ
ビチャ
「前立腺っ♥これをち○ぽで押し潰す感触は女のコじゃ味わえないからね♥おら潰れろっ♥潰れろっ♥もう役に立たないんだからっ♥」
「ぎひっ♥イグっ♥イグうっ♥」
「まったくどれだけ溜め込んでんだっ♥メスイキしかできないバカち○ぽのくせにっ」
「ご主人様とキメセクすると射精止まらなくなるのおっ♥♥♥」
「それは重症ですね(笑)」

「だからトドメッ♥トドメさしてえッ♥ご主人様のおち○ぽ様でっ♥」
ブッポ
ブッポ
ブッポ
ブッポ
「お願いご主人様っ♥ボクのご主人様あっ♥」
ビュルッ
ビュルッ
ガッ
ガッ
ビチャ
ビチャ
「ボクのケツ穴ま○こに変えてっ♥もう精子作らなくていいようにしてえっ♥」
キュウ
「無茶苦茶言うなあ(笑)いくらマスターでもそれは…あ～そんな締めつけたら♥」
「あ～射精る♥射精る…っ♥」

『ふほっ♥♥』
ぼぉぉぉぉぉぉぉぉ!!!
ド


「あ～～～～射精てるぅッ♥ボクのケツま○こッ♥ご主人様の精子でいっぱいいひ～ッ♥」
ギュウウウ
ド
ブビビビ

「う～ん♥次はどっちにしようかな～」
トロ
「私っ♥次は私のおま○こにち○ぽお願いしますっ♥」
「だ～めっ♥ジャンヌにはボクのち○ぽ入ってるんだからいいでしょっねぇご主人様ぁ～♥」
メリ
トロン
「あなたのモノなんか入ってても意味ありません！ズルいですよあなたばかりっ」
「うるさいなあちょっとは譲りなよっキミ本当に聖女？」
「こらこらケンカしないの(笑)」

「うひっ♥♥
ち○ぽキタぁっ♥
いひひっ♥イクッ♥
ふひいっ♥」
「あっ…
もう……ご主人様ってば
ジャンヌにあまい～っ」
「まあまあ
慌てない慌てない♥
順番だよ～♥
ちゃんとアスくんの
ケツま○こにも…」
「え～ん
ケツま○こが
寂しいよ～♥」

「突っ込んでやるからさっ♥♥」
ブチュッ
ぜぇぇッ
メキッ
「えひっ♥」

「う～むこれは迷う♥やっぱりアスくんのケツま○こもイイし…」
「はっ♥はぉっ♥おっ♥おんっ♥」
「ちょっとぉ射精しすぎですよ♥ヒトのケツ穴にっ」
パンッ
パンッ
パンッ
パンッ
ぜゅぐっ

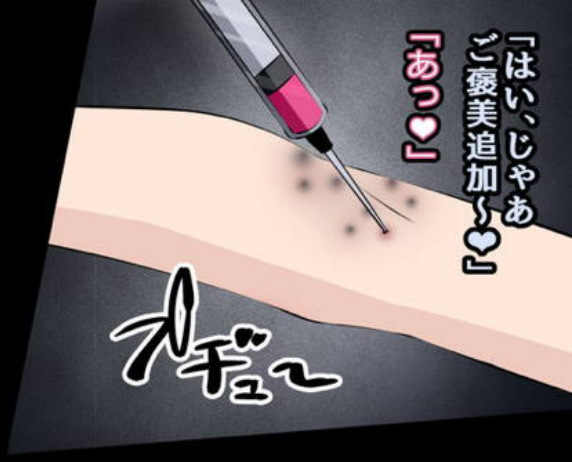
「う～むこれは迷う♥やっぱりアスくんのケツま○こもイイし…」
「はっ♥はぉっ♥おっ♥おんっ♥」
「ちょっとぉ射精しすぎですよ♥ヒトのケツ穴にっ」
ぜぇぇッ
ぎゅぅッ
「ジャンヌのま○こも捨てがたい♥」
「ふほっ♥おっ♥おほぉっ♥」
「ちょっ♥ちょっと締めつけ過ぎっ♥ち○ぽ千切れちゃうっ」
「いやぁ～どっちに射精そうかなぁ～♥」
「ボクっ♥」
「私いっ♥」
「ひひっ♥よぉしそれじゃあ…」

「まずはアスくんにっ♥」
ずんっ!!
「あっ…」
ドッ
「ほ♥ほ♥ほぉ〜♥♥」
「そしてそのままの勢いでえ…っ♥♥」

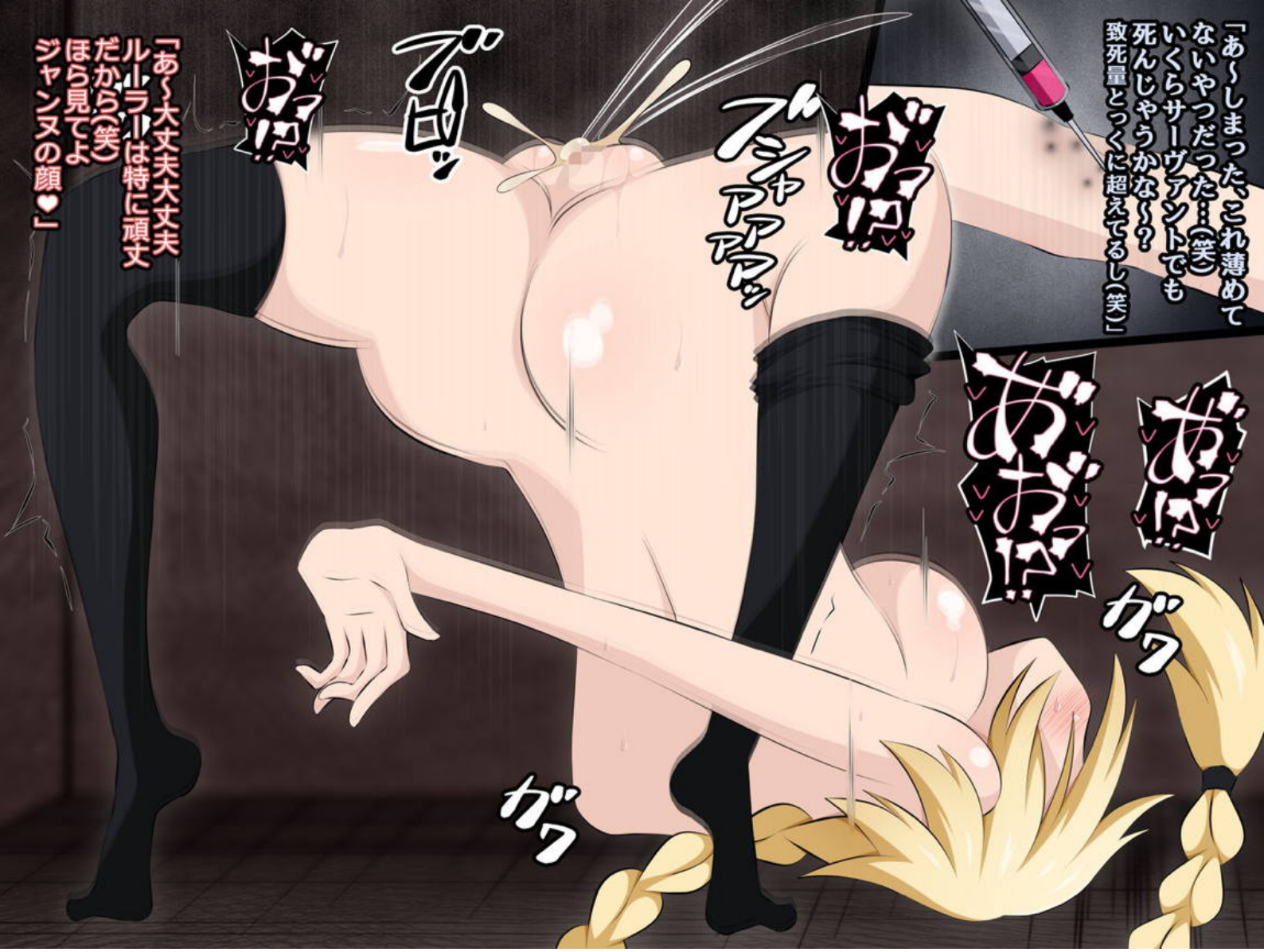
「まずはアスくんにっ♥」
おんっ!!
「あっ…」
「ほ♥ほ♥ほぉ〜♥♥」
「そしてそのままの勢いでえ…っ♥♥」
ドクッ
ビュルッ
ビュビュルッ
ほおっ!!
「ジャンヌに射精えっ♥♥」

「あ～幸せ～❤こんな極上の穴食べ比べして両方に連続射精っ❤」
ブボッ
ほっ
ほおお
ドピュッ
ドピュッ
ドピュッ
「これも全部カルデアごとサーヴァントを全員くれたキミのおかげだよ～❤ありがとお～❤❤」

「ぶひひっ❤ほ～らこれで仲直り❤」
「同じ種を穴から垂れ流す性奴隷同士仲良くしないとね～❤」
「は…はぁ～い❤」
「わかりましたぁ…❤」
「ひっひっひ❤元マスターにはできない仲直りのさせ方でしょ(笑)二人とも僕のモノになってよかったね～❤」


「はい、じゃあ
ご褒美追加～♥」
「あっ♥」
ズギュ～

「はい、じゃあご褒美追加〜」
「あっ♥」
ぶぎぃぃぃぃぃ!!
ブシャアアアッ
ブロッ
ガク
ガク
ガク
「うおっ(笑)すっごい痙攣潮吹き♥」
「うわ〜…カエルみたい(笑)これはさすがにボクも引くなぁ…(笑)」


「あ～しまった、これ薄めてないやつだった…(笑)いくらサーヴァントでも死んじゃうかな～？致死量とっくに超えてるし(笑)」
おっ!!
おっ!!
おっ!!
おっ!!
ブシャアアアッ
ブロッ
ガク
ガク
「あ～大丈夫大丈夫ルールは特に頑丈だから(笑)ほら見てよジャンヌの顔♥」

「あ～しまった、これ薄めてないやつだった…(笑)いくらサーヴァントでも死んじゃうかな～？致死量とっくに超えてるし(笑)」

ブシャアアアッ

おっ!!

おっ!!

ブロッ

おっ!!

おっ!!

おっ!!

ガク

ガク

「あ～大丈夫大丈夫ルールは特に頑丈だから(笑)ほら見てよジャンヌの顔♥」

「超幸せそうじゃん♥」

ギリ

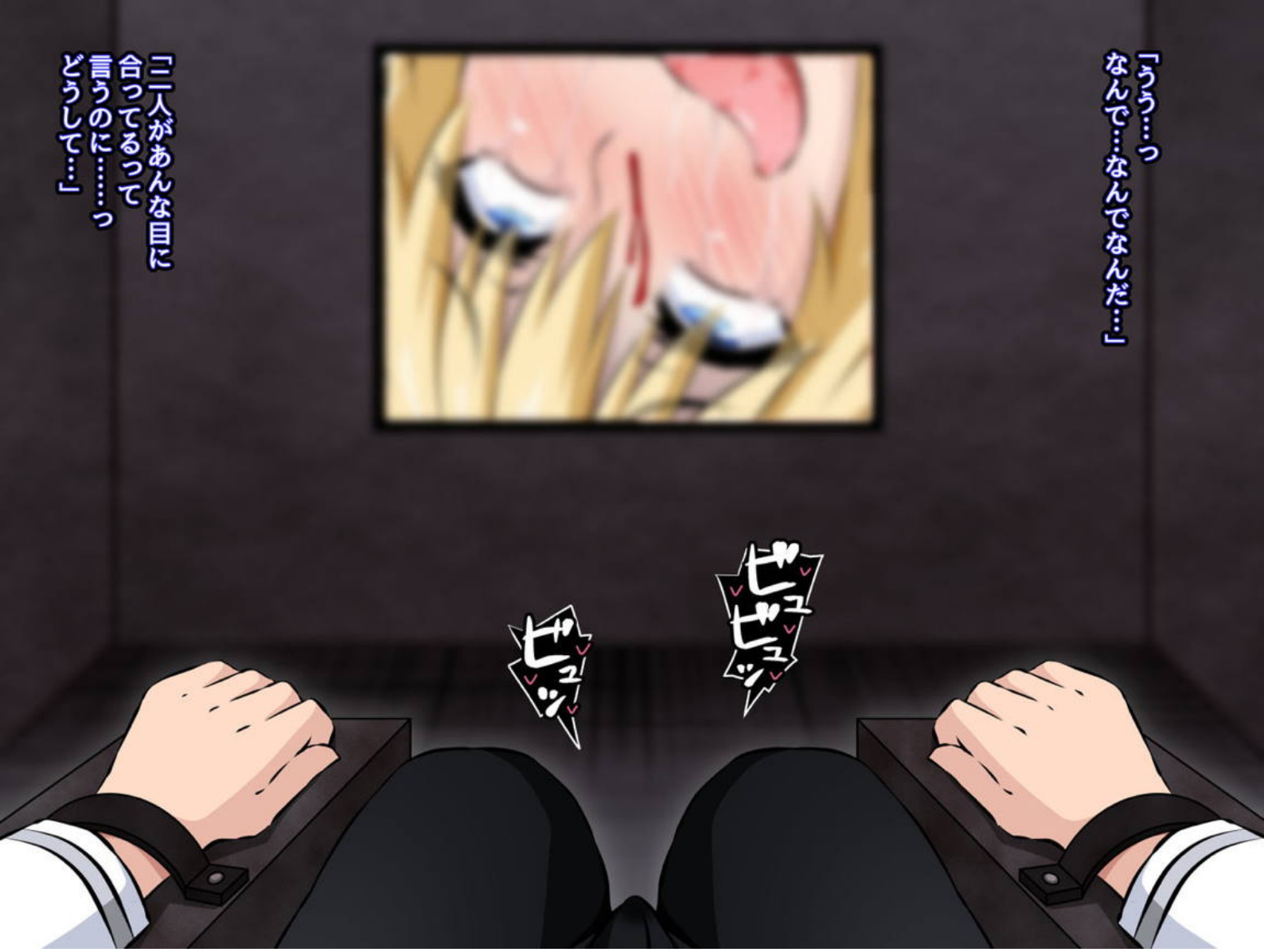
ギリ

ビクビクッ

「お～さすが聖女❤そこらのヤク中とはレベルが違うね(笑)」
ブロッ
ブシャアアアッ
ガワ
あぎぃ
あぎぅ
ガワ
ガワ
「まともに喋れなくなるほど脳みそヤッてもまだまだ元気なんて❤」
「えぎぎて

「まあ性奴隷(サーヴァント)に脳みそなんか必要ないからね❤頭スッカスカになっても身体が使えればそれでいいよ(笑)」
ブシャアアアッ
ブロッ
ガワ
おて
ガワ
「女のコは薬キメればキメるほどま○この具合がよくなるからね❤これからこの極上エロボディがどこまで熟成されるのか楽しみだなあ…❤」
おごごご
「耐久の限界超えて死んじゃうまで使い潰してあげるから覚悟してね❤ってもう言ってもわからないか(笑)」

「ね～ところでご主人様ぁ…？」
「あ～はいはいわかってるよ❤アスくんにもちゃんとあげるから…」
あて
ブシャアアアッ
ブロッ
ガワ
「やったぁ～❤」
「まったく…(笑)じゃあ動画はこの辺で…またね～❤」
ガワ
ガワ
あぢづづ


「うう…っ
なんで…なんでなんだ…」
「二人があんな目に
合ってるって
言うのに……っ
どうして…」
ビュビュッ
ビュッ

「……くそ…くそ……」

この映像のあと二人は
どうなったのか…
二人だけじゃない…
もう手遅れなのか……

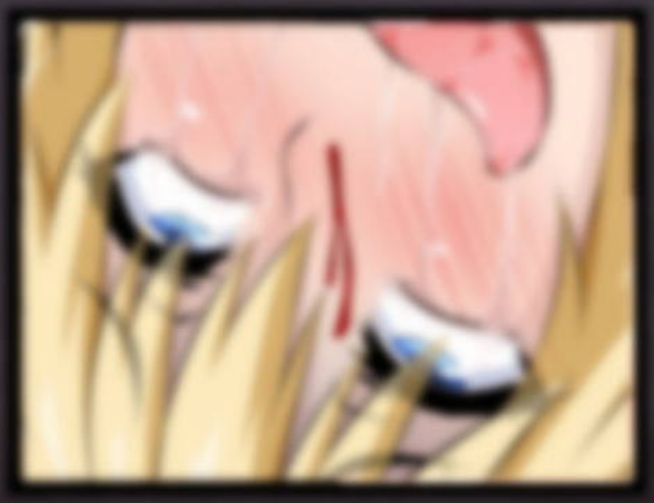
こんなところで…
何もできないまま
終わるのか……

「……」

ジワ…

「……いや」

まだ…諦めちゃダメだ…
こんな情けないマスターだけど
まだ何か…できることが
あるはずだ…



どうにか突破口が…
せめてこの拘束さえ
外せれば……っ
誰か――――

「……先輩」「!!」

ジワ…

「ま、マシュ!!
よかった…この拘束を外して――」
ひょこ
「……ふふ♥」

「ま、マシュ……!?」
「はい♥お久しぶりです先輩♥
楽しんでいただけたようですね…私たちの寝取られ動画♥」
「え…え…!?」
ぼて

「マシュ…そ…そのお腹は…!?」
「もちろん、ご主人様の子を妊娠したんです♥毎日毎日あれだけ膣内射精されたら当たり前ですよね♥
あれから十ヶ月…もう臨月なんですよ♥」
「じゅ…っそんなに経って…!?」
ぼ
「そうですよぉ♥私けっこう頑張って抵抗してたんですけど…」
「妊娠したってわかって心が折れちゃいました♥だからもう先輩は助けられません♥ごめんなさい、先輩♥」
「そんな…うそだ…っ」

「くすくす♥
それにしても…
いったい何回射精
したんですか？」
「自分のサーヴァントが
奪われているのに…
それも拘束されたまま♥
先輩ってホント――」
ぼて

「くすくす♥それにしても…いったい何回射精したんですか？」

「自分のサーヴァントが奪われているのに…それも拘束されたまま♥先輩ってホントー」

「最っ低ですね♥」

ゾクゾク

ぼ

「う…うう…」

「ふふ♥私になじられてまたお漏らししちゃったんですか？どうしようもないクズマスターですね♥…あ、元か（笑）」

セセュュ

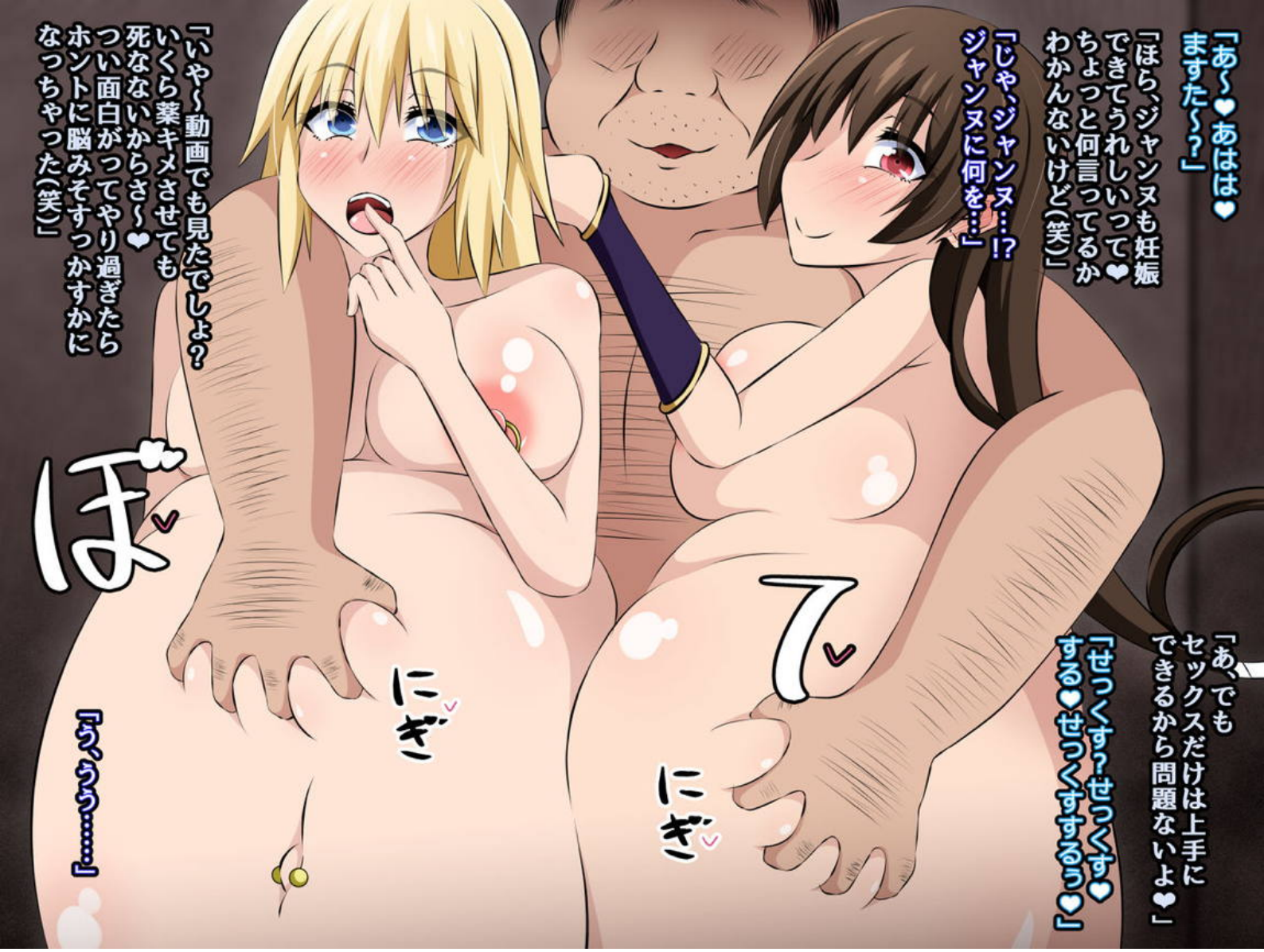
「ホント…ご主人様の言う通り♥なんでこんな情けない人を尊敬してたんでしょう♥ち○ぽも小さいし…（笑）」

「うそだ…マシュ…マシュ…っ」
「くすくすくす♥泣くのは早いですよ(笑)」
ぼ
て
「え……」
「今まで何を見てきたんですか？私だけじゃないでしょう？寝取られちゃったサーヴァントは♥」

「ほら、振り返って見てください先輩♥」
「やぁ初めまして元マスターくん♥」
「え……!?」
うぅ
ぼ
にぎ
にぎ

「あ〜元弟子だ♥ひさしぶり〜」
「さ、三蔵…ジャンヌ…!!二人ともなんで…サーヴァントは妊娠なんか――」
「なんでって…」
「ご主人様の子種で孕むために受肉したからに決まってるでしょ♥
そんなことも見てわかんないの？てか動画でも言ってなかった？」
「こらこら、そんな言い方したら可哀想だよ(笑)彼はマスターとして未熟なんだからさ」
「あはは、そうですね♥童貞だし(笑)あ、受肉するのに聖杯全部使ったけど別にいいよね(笑)」
「いやあ悪いね♥キミが必死に集めたモノ勝手に使っちゃって…でもこのコたちを幸せにするためだから(笑)」
「うう……」
ぼ
にぎ
にぎ

「あ～♥あはは♥
ますた～？」
「ほら、ジャンヌも妊娠
できてうれしいって♥
ちょっと何言ってるか
わかんないけど(笑)」
「じゃ、ジャンヌ…!?
ジャンヌに何を…」
「いや～動画でも見たでしょ？
いくら薬キメさせても
死なないからさ～♥
つい面白がってやり過ぎたら
ホントに脳みそすっかすかに
なっちゃった(笑)」
ぼ
にぎ
にぎ


「あ～♥あはは♥ますた～？」
「ほら、ジャンヌも妊娠できてうれしいって♥ちょっと何言ってるかわかんないけど(笑)」
「じゃ、ジャンヌ…!?ジャンヌに何を…」
「あ、でもセックスだけは上手にできるから問題ないよ♥」
「せっくす～せっくす♥する♥せっくすするう♥」
「いや～動画でも見たでしょ？いくら薬キメさせても死なないからさ～♥つい面白がってやり過ぎたらホントに脳みそすっかすかになっちゃった(笑)」
ぼ
にぎ
にぎ
「う、うう……」

「どうして…
どうしてこんな
酷いことを…!!」

「酷いのはあんたの性癖でしょ～
ぜんっぜん手ぇだしてこないと
思ったらこ～ゆ～ことだったんだ？」

「え……？」

「私たちが酷い目に
合えば合うほど興奮
してたんでしょ？
そのちっちゃい
おちん○ん暴発させ
ちゃうくらい♥」

「いやあまさか
カルデアを乗っ取って
ウィンウィンの関係が
築けるとは(笑)」

「この部屋すっごく
イカ臭いよ(笑)
私たちの寝取られ動画
見て何回射精したの♥
この変態♥」

「君には安心して
このコたちをお披露目
できるよ(笑)
あ、残りの二人…妊娠
できなかった組も
連れてくるね♥」

「……」

ぼ

にぎ

にぎ

「やっほ〜元マスター♥元気〜？」
「ふふ♥旦那はんひさしぶりやなぁ♥」
「おらさっさと歩けこの役立たず便所ども♥」
「ふ、二人とも……!?」
ボルン
ミミ
ヂィ〜

「も～ご主人様ったらヒドイ～♥」
「言い訳するな(笑)」
「酒呑はともかく僕は不可抗力じゃ～ん♥ねえ元マスターもそう思うでしょ？」
「ほら見てよ～僕のケツ穴♥こんなでっかい栓がいるくらいガバガバにされちゃったんだよ♥」
「僕だってケツ穴使い物にならなくなるまで頑張ったけど男の娘ま○こじゃ孕めないんだも～ん♥」
「ぐ……うう……」
ボルン
ギィー

「そんなんまだマシやろ♥うちなんて…ほら見てぇ旦那はん♥」
「歯ぁもぜぇんぶ抜かれて♥角も両方折られてもうて♥」
「う…」
「子宮もぶち抜かれて毎日毎日内臓ふぁっく♥これで餓鬼産めって方が無理な話やわぁ♥」
「まあこっちは確かにやり過ぎたかもしれない(笑)」
「うちが鬼やなかったらもうとっくにくたばってたわぁ♥」
ボルン
ミミ
ヂィー

「あ、誤解せんといて？妊娠自体は何度かしたんよ♥」

「でもそれも全部ダメにされてもーてぇ♥」

「しゅて…ぐ…」

「ほら、いち、にい、さぁん回も♥子宮も飛び出したまま戻らへんようになるほど♥そらもうめっちゃくちゃにぃ…」

「酒呑…もうやめ…っ」

「なんでやの？ちゃんと聞いてぇな♥」

「うち、もう受肉してるからもう取返しつかへんのよ？このボロボロにされた身体ぜぇんぶ……っ♥」

「全部あんたのせいやで♥旦那はん♥」「う…!!」

ボルン

ヂィー

「あー！くそ～やられた～」

「ひひ♥賭けはうちの勝ちやなぁ♥どっちが先に元ますたぁを射精させられるか…♥」

「まさか本当に言葉責めだけで射精しはるとは思わんかったけど…♥ほら見てみぃこの情けない顔♥」

「動画では必死に抵抗してたうちにあんなこと言われたんがよっぽど堪えたんやろなあ…♥♥」

ビュクッ!!

「う…うう…」

「ちぇ～僕も堕ちてないふりしときゃよかったかなあ～(笑)」

「ほら二人とも遊び終わったならちゃっちゃと歩いて(笑)」

「はぁ～い♥」「はぁい♥」

ボルン

ミミ

ヂィ…

「わかりましたか？先輩が今更何をしたところで私たちもうみんな手遅れなんです♥」
「うう……」
「だからそこで大人しく見ていてください♥ご主人様のコを出産するところ♥」
「陣痛促進剤が効いてくるまでもう少しかかるみたいですけど…待っていてくださいね♥ご主人様だって暇つぶしして待ってくれてるんですから♥」
「え……」
「ほらほら♥よそ見しない♥」

「まったく…どうせ堕ちるならもうちょっと早く堕ちればまだ孕めたのに♥無意味な抵抗続けるからこーやって子宮オナホしか使い道なくなっちゃって…まあこれはこれでいいけど♥」

「あへぇっ♥えへぇ♥せやかて元ますたぁがこないなへたれとは思わんかったからぁっ♥信じて抵抗してたうちが阿呆やったわぁ♥」

「……!!」

「ほらアスくんはもっと気合入れて舐めて♥腸壁にこべりついてるカスは全部食べていいからね」

「ふぁ〜い♥♥」

「あっ♥あっ♥あっ♥あっ♥イク♥イクっ♥あははぁっ♥ダメになった子宮っ♥ご主人様に使われて喜んどるわぁ～♥♥」

（あ～おいしい～♥ボクとか元マスターとはぜんっぜん違う強烈なオスの匂いっ♥えぐぅい中年おやじの味っ♥えひひっ♥これだけでイケるぅ～♥）

「ひひひっ♥やっぱり完全に堕ちて従順になったサーヴァントはいいなあ～♥」

ブチュウウッ

ブチュブチュブチュブチュブチュブチュ

「二人ともやろうと思えば僕のことなんか一瞬で殺せるのに（笑）」

ガッ

シコ

ガッ

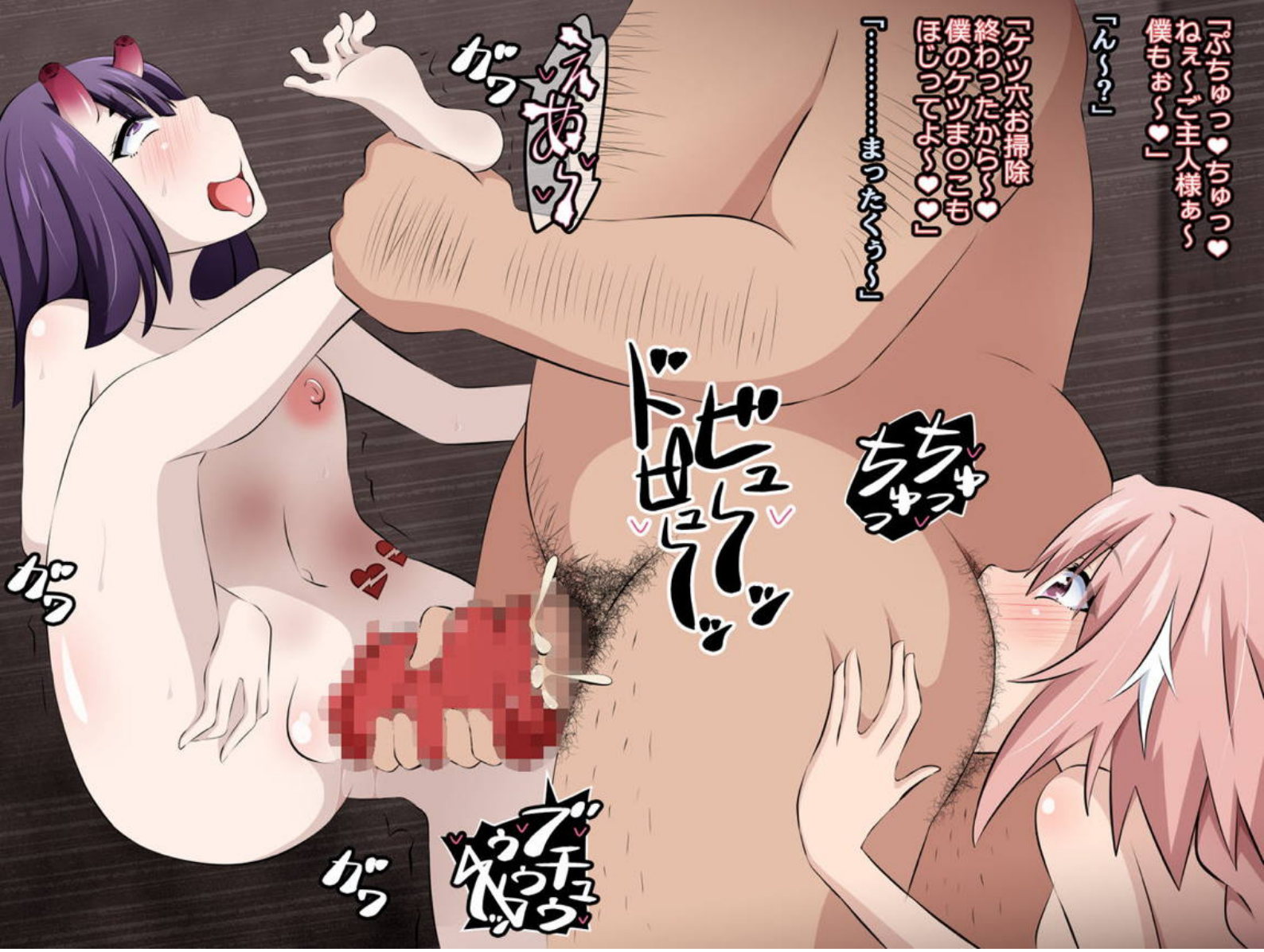
シコ

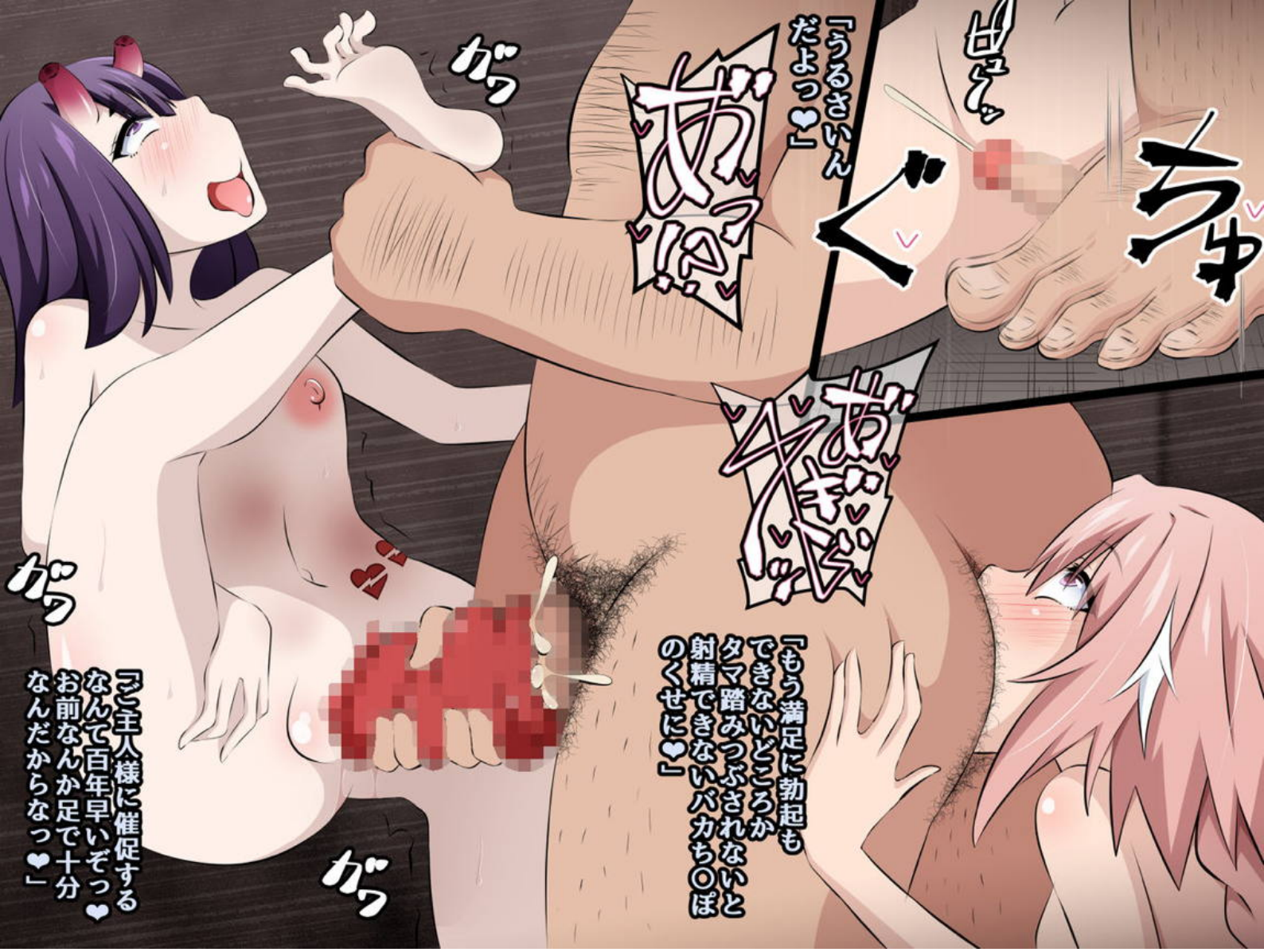
ガッ

「自分より強～いメスをち○ぽで支配するのたまんね～♥」

あ、アスくんはオスか（笑）」

ビュルルッ
ドピュルルッ
「お前ごときのために精子様が何億って数死んでるんだぞ♥死んで詫びろっ♥」
「おらっ♥脳なしま○こに精液排泄してやったぞっ♥ありがたく思え」
「子宮オナホも使えなくなったら自害命令してやるからなっ♥令呪なしでもちゃんと従えよっ♥♥」
ぢゅうぅぅぅッ
ぢゅうぅぅぅッ
ぢゅうぅぅぅッ


「ぷちゅっ♥ちゅっ♥ねぇ～ご主人様ぁ～僕もぉ～♥」
「ん～？」
「ケツ穴お掃除終わったから～♥僕のケツま○こもほじってよ～♥♥」
「……まったくぅ～」
ちゅっちゅっ
ビュルルッ
ドピュルルッ
ぐぅ
ぐぅ
ぐぅ


ちゅ
ぐ
「うるさいんだよっ❤」
ぐぐっ!!
ぐぐぐぐ
「もう満足に勃起もできないどころかタマ踏みつぶされないと射精できないバカち○ぽのくせに❤」
がっ
がっ
がっ
「ご主人様に催促するなんて百年早いぞっ❤お前なんか足で十分なんだからなっ❤」

「あはっ♥破水キタぁっ♥」
「あー！ほらいよいよみたいですよ先輩♥孕めなかった組はもういいですからこっち見てあげてください♥」
「……!!」
あっ
ブシャアッ
バタッ…

「うぎっ❤ひ…い…っ❤で❤弟子い…っ❤❤」
ズズキズキ
ブル
トロ
ブル
「おっ
やっぱり一番乗りは三蔵ちゃんかぁ❤孕んだのも一番早かったしね～さすが妊娠経験者❤
でも出産は初めてだよね？ほら頑張って～元弟子も見てくれてるぞ～(笑)」

「うぎっ♥ひ…い…っ♥で♥弟子い…っ♥♥」
ズキズキ
ブル
「あぁあ♥お腹の中動いて…っっ♥出てこようとしてるっっ♥」
トロ
「弟子っ♥見ててね…っ♥あたしがガキひり出すところしっかり見てでえ～っっ♥♥♥」
ブルブルブルブル
「おっ
やっぱり一番乗りは三蔵ちゃんかぁ♥孕んだのも一番早かったしね～さすが妊娠経験者♥
でも出産は初めてだよね？ほら頑張って～元弟子も見てくれてるぞ～(笑)」

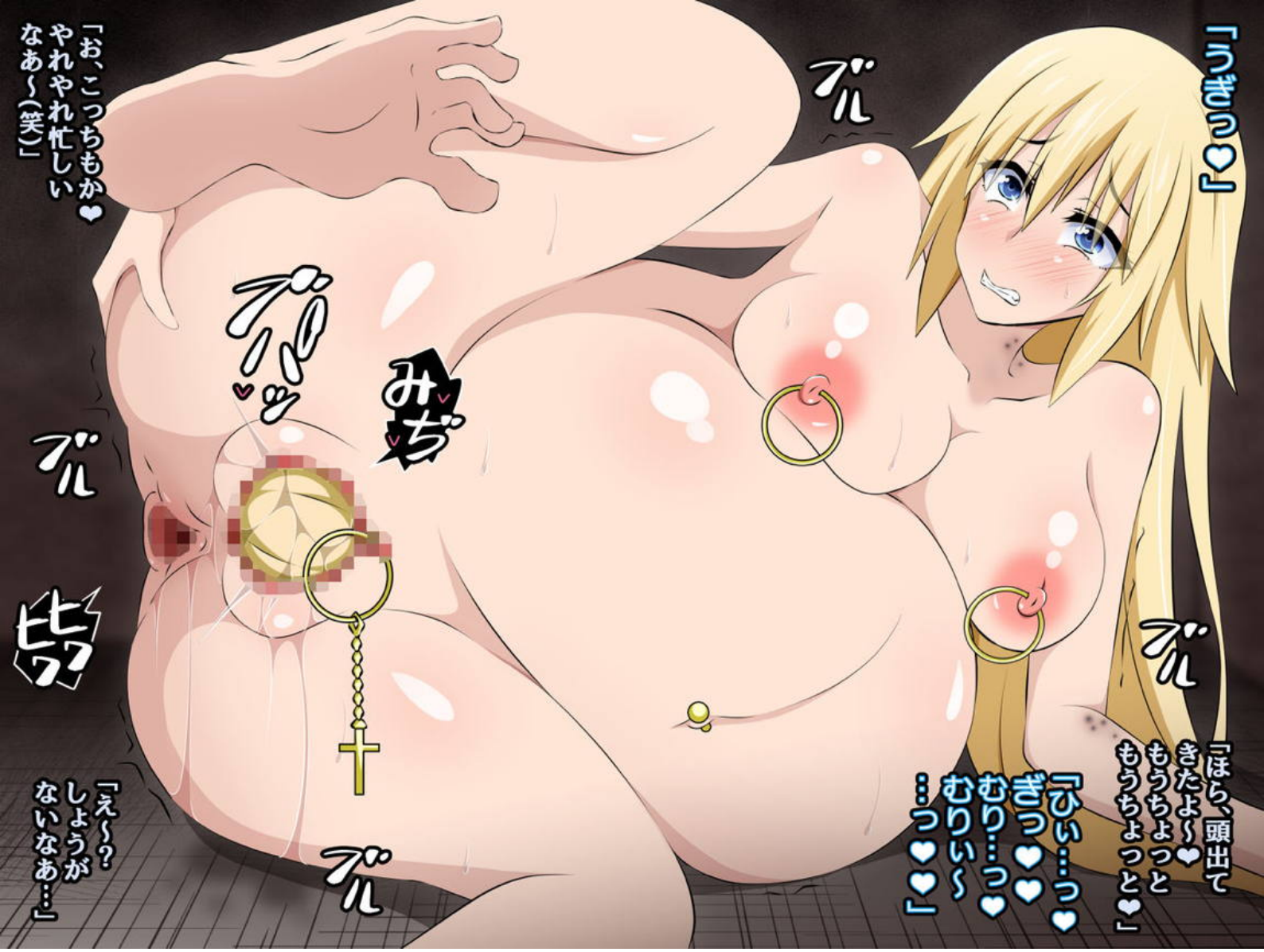
「ほほ、頭出てきたぞ～♥
ほら頑張れ頑張れ～」
ビクッ!!
ビクッ!!
みぢっ
ブヒッ

パァーン
ブル
みぢっ
ブロッ
ぎぃ!!
ブル
「ほほ、頭出てきたぞ～❤
ほら頑張れ頑張れ～」
ぶるぶるっ!!
「なに言ってんのっ」
おっ!!
「大丈夫、三蔵ちゃんなら
いけるいける！
ほらせぇ～のおっ❤」
ああああ

「!!」
おおおお

「おお～おめでと～❤
第一子❤無事出産
完了だね～❤」
「おめでとうございます
三蔵さん❤
獣みたいなアクメ声上げて
とても僧侶とは思えない
最低の出産でしたよ(笑)
おま○こもぽっかり
開いたままになっちゃって…
これから私も…
ああなるんですね……❤」
「ほら先輩も馬鹿みたいに
口開けてないで
祝ってあげなきゃ(笑)」
「あ……う……っ」
ぐつ
ぽっかぁ
ぐつ
どちゃ
ぐつ
おぎゃあ
おぎゃあ
おぎゃあ

（産まれた…本当に…っ
サーヴァントから…
……いや…三蔵から…
俺の『お師さん』から…っ
名前も知らない
おっさんとの子
が――）
「うっ…うううっ」
ぼかぁ
ぐっ
ぐっ
ぐっ
ぐっ
ぐちゃ
おぎゃあ
おぎゃあ
おぎゃあ


「うぎっ♥」
「ほら、頭出てきたよ〜♥もうちょっともうちょっと♥」
「ひぃ…っ♥ぎっ♥♥むり…っ♥むりぃ〜…っ♥♥」
「お、こっちもか♥やれやれ忙しいなあ〜(笑)」
「え〜?しょうがないなあ…」
ブル
ブル
ブル
ブル
ブッ
みち
ピク

「じゃあちょっと手伝ってあげるっ♥」
ぼおっ
ズ
ぶっ
ブチュッ
ブッ
ちゃこ

「あへっ♥えっ♥えっ♥えっ♥」
「ジャンヌの大好きなヤツもあげるから♥お～いマシュ～♥」
「は～いご主人様♥アレですね～」
「ほらっ♥直腸からち○ぽで押したげるから頑張って♥」
「えひっ♥♥えうっ♥」
ブヂュッ
ブヂュッ
ブヂュッ
ブヂュッ
ちゃらっ
ちゃらっ

「羨ましいなぁジャンヌさん
私も少しは嗜みますけど…
致死量の二十倍濃度なんて
とてもキメられません♥
死んじゃいますから(笑)」

ギュウウ〜

バビッ!?

「お待たせしました〜♥
ジャンヌさんの大好きな
脳みそをぶっ壊しちゃう
おクスリですよ〜♥」

ブチュッ

ブチュッ

ブボ!

「やっぱりジャンヌ
にはコレが必要
だよねぇ〜♥」

ちゃらっ

キメ!

バビッ

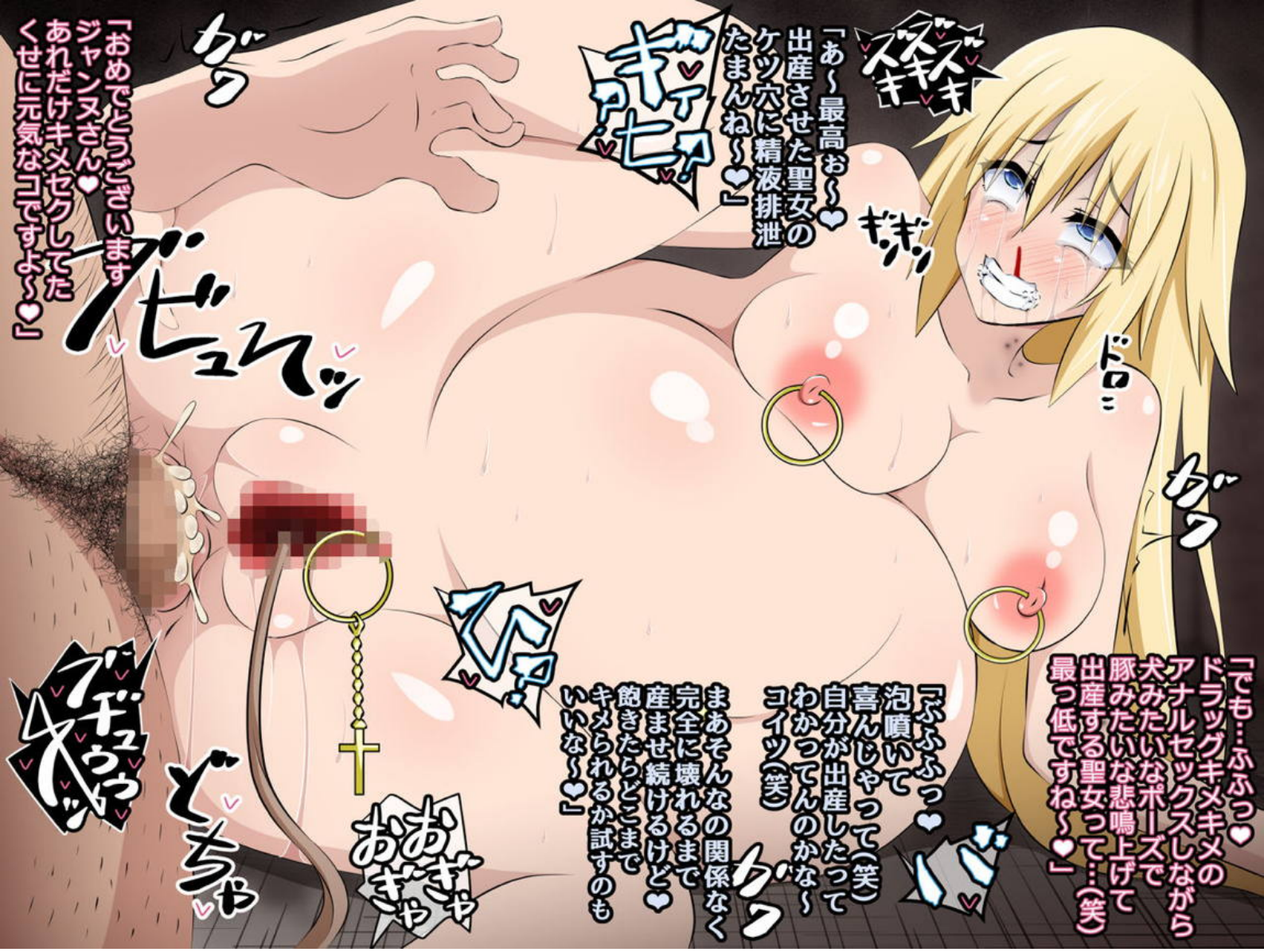
「ほらほらジャンヌ〜
即効で脳に回って
キタでしょ〜?
そしたらヤクキメ
ま○こイキんで〜♥」

ブチュッ

ブボ!

「直腸射精して
あげるから
その勢いでガキ
ひり出すんだよ♥」

「ふほっ♥」
ガク
ブビュルッ
ズルゥ
ガク
ガク
ボキ
ぁぁぁぁぁぁ!!!!!


「でも…ふふっ♥ドラッグキメキメのアナルセックスしながら犬みたいなポーズで豚みたいな悲鳴上げて出産する聖女って…(笑)最っ低ですね～♥」
「ふふふっ♥泡噴いて喜んじゃって(笑)自分が出産したってわかってんのかな～コイツ(笑)まあそんなの関係なく完全に壊れるまで産ませ続けるけど♥飽きたらどこまでキメられるか試すのもいいな～♥」
「あ～最高お～♥出産させた聖女のケツ穴に精液排泄たまんね～♥」
「おめでとうございますジャンヌさん♥あれだけキメセクしてたくせに元気なコですよ～♥」
ズキズキ
ギィィィ
ギンギン
ドロ
ガク
ブビュルッ
ビクッ
ブギュウウッ
どちゃ
おぎゃ

「うっ♥ふぐ…っ」
「あ～あ～またお漏らしですか？
ホンっトどうしようもない
マゾ童貞ですね先輩は…♥」
「これでわかったでしょう？
貴方は自分のサーヴァントが
他所の男に壊されたり
出産させられたりするのを
見て喜ぶクズなんです♥
一人でも自分の女にしてれば
違ったかもしれないのに…」
「ぐ…うぅ…」
「じゃあ…
最後は私ですね♥
私がご主人様のコを
産むところ…
しっかり目に焼きつけて
くださいね♥」
ビクッ
ビクッ

「いやあ…やっぱり二人分は重たいなあ♥お迎え棒も楽じゃないよ♥」
（くそ…お腹を持ち上げてわざと見えるように…っ）
「ほらっ♥しっかり見てください♥ここですよっ♥先輩が触れたこともないま○こがご主人様のち○ぽとばっちり繋がっちゃってるところっ♥」
「うう…」
ゼッ
ゆさ
ゆさ
ぐぃ
ズブッ
ズブッ
ズブッ
ブッ

「不格好に膨らんだお腹もっ♥ほら母乳まで出るようになっちゃって♥
あ！あとこれ！タトゥーっ♥これ魔術とはな～んにも関係ない…ただ一生消えない落書きをされちゃっただけなんですよっ♥」
「ぜ～んぶ先輩じゃない…別のオスっ♥ご主人様に支配されちゃった証ですっ♥♥」
「ごめんね～キミの後輩ちゃんだったのに♥まあ女は孕ませたもん勝ちみたいなところあるからもう諦めてよ(笑)」
ゼュッ
ゆさ
ゆさ
ぐぃ～
ズブッ
ズブッ
ズブッ
ズブッ
ゼン

「いやぁ～それにしても
マシュは本当にキミのこと
好きだったんだね～❤
堕とすのに苦労したよ❤
キミに向けられてた愛を
催眠でちょっとずつ奪って…
キミに対してS ッ気が強い
のはその反動かな(笑)
ねえマシュ❤」
「はいご主人様っ❤
もうこんな人どうでもイイ…
いえ、むしろ虐めたいですっ❤
先輩の泣き顔みながら
ご主人様とセックス最高っ❤
目の前で私が出産したらどんな
顔してくれるんだろ…っ❤❤」
「うう…マシュ…っ」
ぐぃぃ
ゆさゆさ
ズブッ
ズブッ
ズブッ
ズブッ
ブブッ
ブブッ
ブブッ
ブブッ

「ほら射精っ♥
射精してくださいよ先輩っ♥
私も手伝ってあげますからっ♥」
「あっ♥マシュ…やめ…っ♥」
「はは、悪い後輩だな～(笑)
元マスターのち○ぽを
足蹴にするなんて」
「ジャンヌさんたちの出産で
あれだけ射精してたくせに
ズルいですよっ♥
今日何発目とか関係ありませんっ」
「やめ…っマシュ…っ」
「どうせうすぅ～い
シャバシャバ精子なんですからっ♥
ほら射精してっ♥
私のために童貞短小ち○ぽ
無駄打ちしてくださいっ♥」
「マシュ…
マシュ…っ♥」
ぐぐ～
ズブッ
ズブッ
ぐリ
ぐリ
ぐリ

「あっ❤ああっ❤」
「あはっ❤射精したぁ…ホントに射精したっ❤してますよねこれ？
私の寝取られセックスで泣きながら射精っ❤びくびくしてかわい～❤」
「あ――」
（くそ…もう何度目かもわからないのに…今までで一番多く…っ）
「今日初めて感じる刺激がそんなに良かったですか？足の裏で脈打ってるの感じますよぉ～❤……にしてもホントにショボいですね❤」
「え…」
「確かに…同じ男としてこれは擁護できないなぁ（笑）」
「いいかい？ホントの射精っていうのは――」
ぐぐ
ぐぐ
ぐぐ
ズブッ
ズブッ
ズブッ
ビクビク
ビクビク

「こうやるんだよっ♥」
ずぼっ
『!!』
ドボッ

「ぶ❤ぶふぅ～❤ひひ、わかった？メスを堕とすにはこれくらいの勢いがないとね～❤」
「ぴったり閉じた子宮口を無理矢理こじ開けるくらいじゃないと――」
あぁ～
おぉ
ビク
ビク
ビク
ドブッ
ゴポポ
ビュビュ～ッ
ビュビュ～ッ

「ぶ❤ぶふぅ～❤ひひ、わかった？メスを堕とすにはこれくらいの勢いがないとね～❤」
あぁ
おぉ
「ぴったり閉じた子宮口を無理矢理こじ開けるくらいじゃないと――」
うぎっ!?
ズキッ
「お❤ようやく陣痛始まったかな？それじゃあメインイベント…」
「あ…」
「マシュの出産❤始めるよっか❤」
ゴポポ
ビュビュビュッ
ビュビュビュッ
ビク
ビク
ドプッ

「は～い景気よく破水もキメたところでいよいよ始まりま～すマシュの出産ショー♥
元マスターくんは特等席でご覧ください～い(笑)」
「う……」
ドバッ
ビシャ
ビシャ
パパ
ずっぷ!

「せ、せんぱ…っ せんぱぁいいいい……っ♥♥」
ブル
「ほらもう一息〜♥ もうちょっとで 大好きだった先輩に 僕たちの愛の結晶 見せつけてあげれる んだよ〜♥」
「あっ♥あっ♥ あ――」
「ふぎ…っ うぎぎぎぃ…!!」
ブル
みぢぃ
「頑張れ頑張れ〜 頭出てきたよ〜♥ 元マスターくん も応援してあげて♥ カワイイ後輩が 頑張ってイキんでる んだから(笑)」
ブル
「ま、マシュ……っ」

「おっ❤」
『!!』
おぉぉぉ
ぉぉぉ!!!ぉぉぉ
ズ
ハンッ

「いや～感動だなぁ❤無責任に遺伝子まぜまぜしまくった結果がこんな必死に出てくると命を支配してやったって感じするよね❤どうかな元マスターくん❤僕が遊びで孕ませた命の重み感じてくれてるかな？(笑)」
ガク
ぎゅぱぁ～っ
「は～い❤マシュちゃんも無事第一子出産完了しました～❤」
（拍手～……はできないか(笑)拘束されてるもんね(笑)）
ガク
ぎゅぁ～っ
ぢちゃあ
おぎゃぁ
「あ、あ……」

ガク
ぎゅ～っ
「見てこのだらしないアクメ顔❤人のコト言えないよね～(笑)
これでわかったかな？みんなボクのモノになったんだって❤」
ガク
「う……」
ぎゅ～っ
「ひひひ❤みんな喜んでボクに命を捧げるメスマゾ性処理便所にね～❤」
ぎゅ～っ
「もちろんマシュも他のみんなも全員死ぬまで孕ませ遊びさせてもらうけど❤もう今更どうしようもないんだよ❤」
ガク
ぢちゃあ
おぎゃ
おぎゃ

「ふぅ～終わった終わった♥
うわ、なんだこれ
足の踏み場もないな(笑)」
はーっ
はーっ
ガッ
ガッ
ガッ
ガッ
ガッ
ド
ロ
ビクッ
ビクッ
ビクッ
おおぎゃぁぁっ
「まったく出産くらいで
だらしないぞ～♥
みんな英霊なんだから
しっかりしないと(笑)」
「……」
「まあいいや
じゃあ僕はもう寝るから
後はよろしくね～
マシュ♥」
「ふぅ…ぅ…♥
は、はぁ～い
ご主人様…♥」

「はぁ…はぁ…♥せ、先輩…♥」
「……マシュ…」
「これで思い知ったでしょう？ご主人様の言った通り全部手遅れだって♥」
「私たちみ～んな心の底からご主人様以外はど～でもいいって思ってるんです♥今さら助けてなんか欲しくないんですよ♥」
「う……うう……」
ガッ
ガッ
ガッ
ガッ
ビクッ
ビクビクッ
おおぎゃぎゃっ

「ぶ…ふふふ♥泣かないでくださいよ(笑)先輩にもきちんとお仕事をあげますから♥」

「え……」

「し、仕事って…」

「先輩にはこのコたちの子育てをお願いします♥童貞でもできるカンタンなお仕事でしょう♥」

「ご主人様が私たちに無責任に仕込んだガキを一生懸命育てるんです♥」

「くすくす♥先輩にお似合いのみじめなお役目でしょ?」

ガッ

ガッ

ガッ

ガッ

ガッ

ビクッ

ビクビクッ

おおぎゃぎゃぎゃっ

「あ、拒否権はありませんから♥気づいてないかもしれませんけど先輩ももう洗脳済ですよ♥」
『……』
ガッ
「その拘束はもういりませんね♥解いてあげますから…よかったですね～シコり放題ですよ(笑)」
ガッ
ド
ロ
ガッ
「早速働いてください♥これから一生、子育て係として♥わかりましたか？ほら返事は？」
ガッ
ビクッ
ビクビクッ
おおぎゃぎゃぎゃっ
『……はい…』

「あ、拒否権はありませんから♥気づいてないかもしれませんけど先輩ももう洗脳済ですよ♥」
『……』
ガッ
「その拘束はもういりませんね♥解いてあげますから…よかったですね～シコり放題ですよ(笑)」
ガッ
ド
ロ
ガッ
ガッ
「早速働いてください♥これから一生、子育て係として♥わかりましたね？ほら返事は？」
ビクッ
ビクッ
ビクッ
おおぎゃぁぁぁっ
『……はい…』

「あ、拒否権はありませんから♥気づいてないかもしれませんけど先輩ももう洗脳済ですよ♥」
『……』
ガッ
「早速働いてください♥これから一生、子育て係として♥わかりましたか？ほら返事は？」
「その拘束はもういりませんね♥解いてあげますから…よかったですね～シコり放題ですよ(笑)」
ガッ
ドン
ガッ
ビクッ
ビクビクッ
おおきくなっ
『……』
『……はい…』

それから……

おぎゃおぎゃ
「……」
「はぁ～い♥ミルクの時間でちゅよ～♥」
「んん～♥ちゅぱちゅぱ♥ママぁ～♥」
「はいは～い♥おっぱい飲みながらママとセックス上手でちゅね～♥」
ぎゅるるっ
ぱんぱんぱん

おぎゃおぎゃ
「……で？」
「あんたは何しにきたわけ？元弟子」
「あ…いや…」
「あたし、ご主人様と二人目作るのに忙しいんだけど♥赤ちゃんプレイしながら…ね～ボクちゃん？」
「んぷ～♥ママのおま○こきもち～よ～ぶぎゅらっ
おっぱいもうまうま～♥」
パッチュン
パッチュン
パッチュン
じゅる
じゅる

おぎゃおぎゃ
「ええと…
実はこのコに…」
「あ～言っとくけど
母乳ならあげないからね～
あたしのおっぱいは
ご主人様専用なんだから♥」
「そのガキにはいつも
みたいに粉ミルクでも
飲ませときなさい(笑)」
ぎゅるっ
じゅる
じゅる
バッチュン
バッチュン
バッチュン

おぎゃおぎゃ
「ええと…実はこのコに…」
「あ～言っとくけど母乳ならあげないからね～あたしのおっぱいはご主人様専用なんだから♥」
「そのガキにはいつもみたいに粉ミルクでも飲ませときなさい(笑)」
ぎゅるっ
じゅる
じゅる
パッチュン
パッチュン
パッチュン
「あ～ママ～おしっこ～♥おしっこ出ちゃう～♥」
「あ♥はいはい…♥いいでちゅよ～そのまま射精して♥」
「あ～♥ふひ♥」
「ママの膣内に白いおしっこいっぱいお漏らししちゃいまちょうね～♥」

「んぶぶっ♥」
ぶっ
ドッ
ブルッ
ブルッ
ブビュビュビュビュッ

「……」
「……ほら元弟子？用が済んだならあんたはさっさと行きなさいお仕事は山積みでしょ」
ビュビュビュビュビュビュビュビュ
「……うん……」
「あ、二人目できたらそのときは追加でまたヨロシク～♥この調子ならすぐデキるからそのつもりでね♥」
ドッ
「いひひ♥上手にお射精できまちたね～♥ママの卵子にもちゃんと当てれるかな～？♥」
「当てるっ♥ぜったい当てるぅ～♥ボクの精子でママの卵子また集団レイプする～♥」
ブルッ

【ご注意】
酒呑ちゃん編には歯なし描写があります。
（ファイルNo.【201】および【602】）

苦手な方はご注意ください。

ぬはぁ…
あっ
ギン
ギン

ぶるるっ
ぶちゅっ
ぐぷっ
「うひょ♥」

「んん～❤やっぱりいいなぁ酒呑ちゃんのお口ま○こは❤ぬっちょぬっちょの口腔内で感じるこりこりした歯茎の感触❤」

ギャフぼン！

ギャフぼン！

「元マスターくんのち○ぽも一回くらいはしゃぶってあげればいいのに❤知ってるよ～？最近ず～っとオナ禁させて遊んでるでしょ（笑）」

ギャフぼン！

ブギュッ

「喉奥に至ってはもう造りが人間と違うし❤ち○ぽに絡みつくぅ～❤まさにち○ぽしゃぶるために産まれてきた生物❤これがあるから酒呑ちゃんを廃棄にはできないんだよな～❤」

ギャフぼン！

ギャフぼン！

「ひどいなぁ～子育てとか掃除とか頑張ってくれてるのに粗チンだからって虐めるなんて（笑）」

ブギュッ

(だってえ❤旦那(ご主人様)はんったらうちらのセックス見てオナニーばっかりしてるんやもん❤気持ち悪いったらないわぁ(笑))
ぎゅっぽん!
「ふふふ❤あの生意気だった酒呑ちゃんがずいぶん従順になって❤何考えてるか表情でわかるなあ(笑)毎日毎日鬼退治して叩き込んだかいがあったよ❤」
ぎゅっぽん!
ぎゅっぽん!
ブヂュッ
ブヂュッ
(あ~んなちっちゃいち○ぽ見るのもいやや❤)
ぎゅっぽん!
ぎゅっぽん!
やっぱりち○ぽはご主人様みたくしゃぶりごたえがないとぉ…❤❤)
「ち○ぽの大きい男が生物として上位種だってねっ❤おら射精すぞっ❤」

ビギャマ
「おっ❤おほぉ～～
すげえ吸い付き❤
さすが酸素より精液が
大事なフェラ奴隷❤
そうそう❤ちゃ～んと
一滴残らず吸い出してね❤
それが今日も酒呑ちゃんの
ご飯だからね❤」
ゴキゴキゴキゴキ
ゼルルルルッ
ドゼュッ

あはぁ〜
ぐちょぉ〜
ダルゥッ
ゴポッ
はぁ〜い
「あ、お口に残った精液は元マスターくんに見てもらったら飲み込んでいいからねいつもみたいに(笑)」
「はいお粗末様でした〜❤今日も朝勃ち〇ぽ愛情フェラで起こしてくれてありがとね〜❤」

「ふんっ♥ふんっ♥」
「あれ～？元マスター何してんの？ジャンヌのガキなんか抱えて」
「あ、いや……ジャンヌを探してるんだけど……」
ズブッ
ズブッ
ズブッ
ズブッ
ズブッ
トロ～
「ジャンヌぅ？な～んだボクとご主人様のアナルファックでシコりに来てくれたんじゃないのぉ？…あ♥今はオナ禁中だっけ♥大変だね～（笑）」
「……」
「ま～ボクもあんま人のコト言えないけどね～♥見てよこのタマタマ♥完全に潰されちゃってもう勃起もできなくなっちゃった♥」
「前立腺抉られても種無し精液垂れ流すだけ♥」
ブギュッ
ギュッ

「え、えっと…」
「あ、ジャンヌだっけ(笑)あのヤク中女ならいないよ♥」
「え…!?」
「あ、へーきへーきちゃんと生きてはいるから(笑)ただフレンドに貸し出してるだけ♥」
ズブッ
ズブッ
ズブッ
ズブッ
ズブッ
トロ〜
「ジャンヌにすっごいご執心のクソガキマスターがいてさ〜♥あんなヤク中女のどこがそんなにいいんだか知らないけど♥クスリで壊して遊ぶのにも飽きたから貸してあげてるんだって♥ご主人様ったら優しいよね〜♥」
「あ〜射精そ…♥」
「だからそのコに母乳あげるのは諦めなよ♥てかあんな薬漬けの身体から出た母乳あげない方がいいよ(笑)」
「射精すぞぉ〜直腸にい…っ♥」

「ふんっ❤」
ぴっ
ドッ
ブッ
ゼクッ
ゼクッ
ブビュルッ
ブビュルッ
ブビュルッ
「おら～っ❤
しっかり飲み干せよ～
ご主人様のありがた～い
精液だぞ～❤」

「ふぅ～射精した射精した❤」
ビクッ
うわ、ヒドイなこりゃ(笑)」
「あっ❤あ～ご主人様の精液が…❤漏れちゃう～」
ズルゥ
ビクッ
ドロ～
ビクッ
「使う度にぐちゃぐちゃになってくな～このケツ穴❤まだ気持ちいいからイイけどこりゃ使い物にならなくなるのも時間の問題かな(笑)男の娘ま○こはすぐにガバガバになっちゃうからね～❤あ、そうなったらキミに回してあげてもいいよ？アスくんさえよかったらだけど❤」
「え～絶対ヤダ～❤そうなったら廃棄にして～」
「……」

「ジャンヌっ♥愛してるよジャンヌぅっ♥」
「はっ♥はっ♥はっ♥はっ♥」
「あ～夢みたいだっ♥ぜんっぜん召喚に応じてくれなかったジャンヌとこーやって毎日セックスして過ごせるなんてっ♥
あ～ジャンヌっ♥ジャンヌっ♥」
パンッ
ガク
パンッ
ガク
パンッ
ガク
だらー

「あうっ♥ うー♥ うぅーっ♥」

「ねっ♥ わかるでしょっ♥ だから♥ねっ♥」

「あうっ♥ うぐっ♥うっ♥」

「孕んでっ♥ 今度は僕のコ♥」

「あぁ～可哀想にっ♥ あんなおっさんに 薬漬けにされて 壊されちゃうなんて♥ でも大丈夫っ♥ これからは僕が面倒 見てあげるからねっ♥」

「ふぅーっ♥ ふぅーっ♥」

「僕はあんなおっさんに キミを寝取られた前の マスターとは違うから♥ ち○ぽだって おっきいしっ♥ コレで召喚したメス鯖は 全員堕としてきたんだよ♥」

「妊娠しろっ ジャンヌ～っ ♥♥」

パンッ

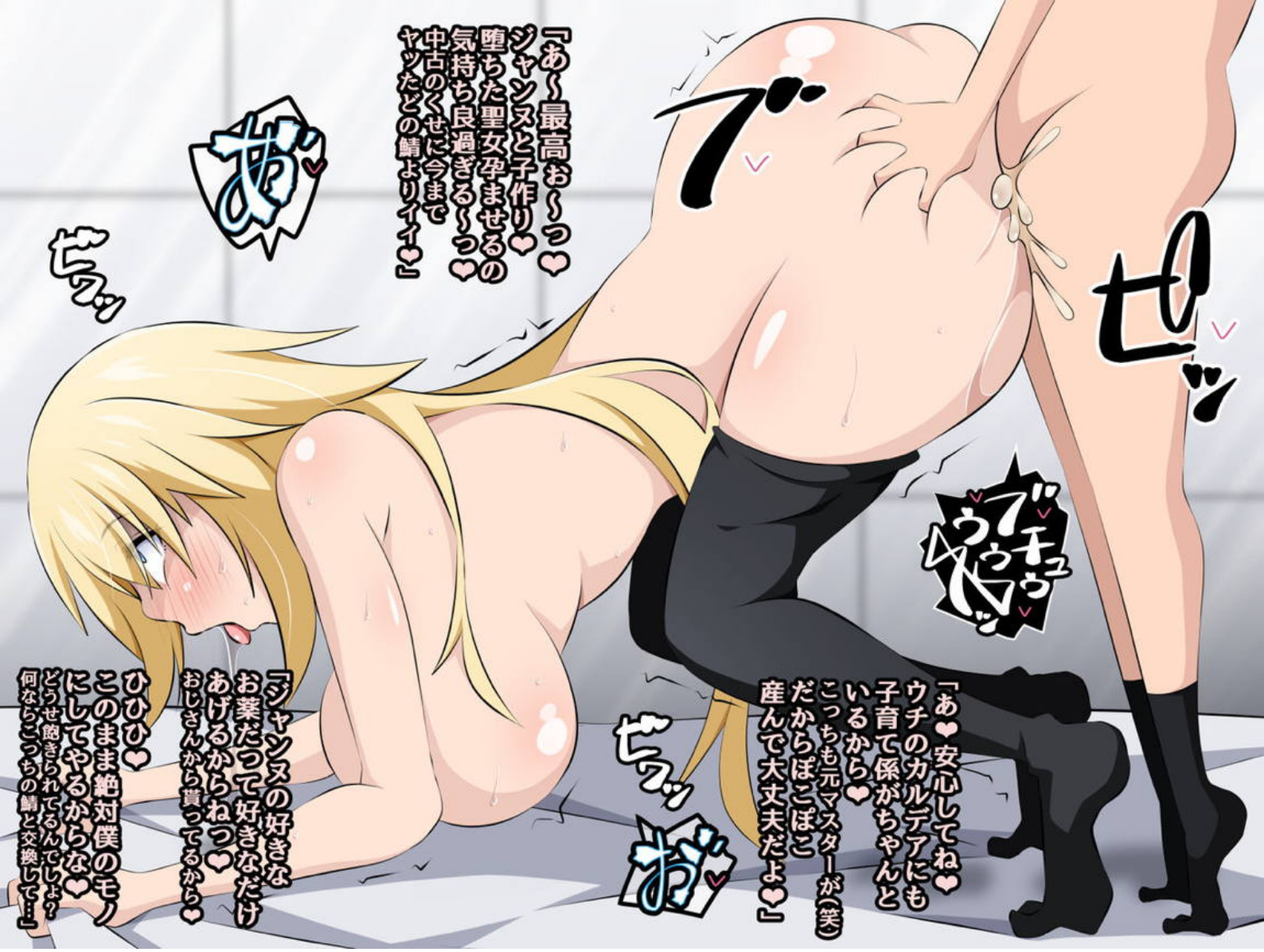
パンッ

ガク

ガク

だらー

えぐぐ
ブ
ゼッ
ブチュウウウッ
『うほ～っ♥』


「あ～最高お～っ❤ジャンヌと子作り❤堕ちた聖女孕ませるの気持ち良過ぎる～っ❤中古のくせに今までヤッたどの鯖よりイイ❤」
お
ぜッッ
ぜッッ
ぜッッ
ぶぢゅうぅぅぅッッ
「あ❤安心してね❤ウチのカルデアにも子育て係がちゃんといるから❤こっちも元マスターが(笑)だからぽこぽこ産んで大丈夫だよ❤」
お
「ジャンヌの好きなお薬だって好きなだけあげるからねっ❤おじさんから貰ってるから❤
ひひひ❤このまま絶対僕のモノにしてやるからな❤どうせ飽きられてるんでしょ？何ならこっちの鯖と交換して!!」

「あ、せんぱぁ～い♥
遅いですよ？
私が呼び出したら
十秒以内に
かけつけなきゃ（笑）」
「……ごめん…」
「やっほ～元マスターくん♥
またまた会ったね～（笑）」
「ご主人様から
聞きましたよ？
みなさんのところ
回ってたんですって？
私だけ仲間外れなんて
ヒドイじゃないですか♥
私、先輩に見せたいもの
があるのにい～♥」
「見せたいもの……？」
ズッ
ズッ
ズッ
ズッ
ズッ
ブギュッ
ブギュッ

「じゃあ～ん♥私、二人目がデキました～♥」
『！』
「いえ～い♥パチパチパチ～」
「スゴイでしょう？私が一番乗り♥お腹も引っ込んだばかりなのにこんなに早くデキるなんて♥きっと私とご主人様の相性がばっちりってことですね♥」
「いや排卵薬乱用したからじゃないかな(笑)」
ズッ
ズッ
ズッ
ズッ
ブギュッ
ブギュッ

「……あ……」
「アホ面してないで何か言ってくださいよ♥どうですか～自分がオナ禁子育て生活させられてる間に私たちがヤリまくって二人目作られちゃった気分は（笑）これも産まれたら先輩が育てるんですよ？」
「ごめんね～マシュがどうしてもすぐ二人目欲しいって言うからさ～♥」
「ほら！妊娠したカワイイ後輩に言うことがあるでしょう？ほら早く～」
「……お、おめでと……」
ズッ
ズッ
ズッ
ズッ
ブギュッ
ブギュッ

「ぶほっ♥」
「あ～最高お～っ♥射精捗るぅ～っ♥」
「いひひっ♥あっ♥すごっ♥やっぱりっ♥先輩の前だとご主人様の射精いつもよりすごいっ♥先輩の惨めな寝取られ宣言でご主人様の精子元気になってるぅ～っ♥」
ビクッ
ビクッ
ド
ビュビュビュビュッ
ポッ

「はぁ…♥はぁ…♥あ～よかったぁ…っ♥最高ですよ～先輩♥やっぱり先輩は寝取られの才能がありますね♥」
「……」
「あ、じゃあもう帰っていいですよ(笑)」
「え……」
「だってセックスの肴にフッその負け犬顔が見たかっただけですから♥後は私とご主人様だけで楽しみますから、子育てに戻ってください♥」
「……あ、あの…」
ビシッ
ビクッ
ド
ポッ
ビビビ

「ん？なんですか～？あ～もしかしてオナニーさせてもらえると思ってました？（笑）くすくす♥ダメに決まってるでしょ♥まだ一ヶ月なのに♥
私は先輩がちっちゃい役立たずち○ぽおっ勃たたせながら我慢する姿が見たいんですから（笑）」
ビシッ
『う……』
「身の程知らずな要求した罰としてオナ禁あと一ヶ月追加です♥
苦労して射精我慢できるように躾けてあげたんですから（笑）頑張ってくださいね～」
『……』
ビクッ
ド
ビュビュビュッ
ポッ

「ん？なんですか～？
あ～もしかして
オナニーさせてもらえる
と思ってました？（笑）
くすくす♥
ダメに決まってるでしょ♥
まだ一ヶ月なのに♥
私は先輩がちっちゃい
役立たずち○ぽ
おっ勃たせながら
我慢する姿が見たいん
ですから（笑）」
ビシッ
「う……」
「身の程知らずな要求した
罰としてオナ禁あと
一ヶ月追加です♥
苦労して射精我慢できる
ように躾けてあげたんです
から（笑）
頑張ってくださいね～」
「……」
ビクッ
ド
ビュビュビュビュッ
ポッ

「ん？なんですか～？あ～もしかしてオナニーさせてもらえると思ってました？（笑）くすくす♥ダメに決まってるでしょ♥まだ一ヶ月なのに♥
私は先輩がちっちゃい役立たずち○ぽおっ勃たたせながら我慢する姿が見たいんですから（笑）」
ビシッ
ビクッ
「う……」
「身の程知らずな要求した罰としてオナ禁あと一ヶ月追加です♥
苦労して射精我慢できるように躾けてあげたんですから（笑）頑張ってくださいね～」
「……」
ド
ポッ

BAD END

おしまい❤